

はたらく者の サポートガイド

働くルールや相談窓口などをご案内します

令和8年版

退職、就職

働き方改革

労働組合

セクハラ

非正規雇用

長時間労働

スキマバイト

最低賃金

甲府市

「はたらく者のサポートガイド」の 発行によせて

国内景気は、物価の上昇や関税引き上げの影響、日中関係の悪化など、不確実な状況が続いておりますが、昨年に引き続き、さらなる賃上げの動きが中小企業にも広がりを見せております。一方で、人口減少や少子高齢化の進展に伴う人手不足への対応が、依然として重要な課題であることに加え、働き方改革やライフスタイル、価値観の変化に適応した多様な働き方・生き方の実現が求められています。

本誌「はたらく者のサポートガイド」は、賃金や労働時間など、採用から退職までの働くことに関する法律や制度について、分かりやすく解説しています。本誌が、学生や就職活動中の方、新社会人の方など、はたらく皆様の仕事と職場における疑問や課題解決の一助となれば幸いです。

最後に発刊に際し、ご指導やご協力をいただきました、山梨労働局、山梨県、山梨県労働委員会事務局、甲府年金事務所、全国健康保険協会山梨支部、日本司法支援センター山梨地方事務所等、関係団体の皆様に厚く御礼申し上げ、ご挨拶いたします。

甲府市

このガイドブックでは、名称の長い一部の法律については、略称で記載しています。

- 労働安全衛生法
⇒ 安衛法
- 育児休業、介護休業等育児または家族介護を行う労働者の福祉に関する法律
⇒ 育児・介護休業法
- 雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律
⇒ 男女雇用機会均等法
- 短時間労働者及び有期雇用労働者の雇用管理の改善等に関する法律
⇒ パートタイム・有期雇用労働法
- 労働者派遣事業の適正な運営の確保及び派遣労働者の保護等に関する法律
⇒ 労働者派遣法
- 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律
⇒ 女性活躍推進法

目 次

I 労働法について	
1 労働法とは何でしょう	1
II 就職するときに	
1 仕事をさがす	2
2 職業能力開発（職業訓練等）	4
3 労働契約と労働条件の明示	4
4 就業規則について	5
5 労働契約の禁止事項	5
6 採用内定について	5
○就職のしきみ（新規大学等卒業者の場合）	6
III 働いているときに（働くときのルール）	
1 労働時間・賃金・休暇等	7
2 母性保護・母性健康管理	10
3 仕事と育児・介護・治療の両立支援	12
4 性別による差別の禁止	18
5 職場環境・健康診断	19
6 社会保険	25
7 無期転換ルール	29
8 高年齢者雇用安定法について	30
9 職場におけるハラスメント対策	31
10 労使間でトラブルが起こったら	33
IV 仕事を辞めるときに	
1 退職	34
2 解雇	34
3 退職・解雇後	35
4 解雇・再就職援助	35
5 未払賃金の立替払	35
6 社会保険の切替、住民税などの手続	35
V さまざまな働き方について	
1 パートタイム労働者（短時間労働者）	36
2 有期契約労働者	37
○学生アルバイトのトラブルにご用心！	38
3 派遣労働者	39
4 業務委託・請負契約を結んで働く人	40
5 労働者協同組合法について	40
6 テレワークの活用	41
7 「スポットワーク」を利用して働くスポットワーカーの皆さんへ	42
○アルバイトを始める前に知っておきたい！ 労働法クイズ	43
VI 労働組合について	
1 労働組合	44
VII 甲府市の労働行政について	
1 労働者福祉事業	45
2 雇用促進対策事業	46
3 中小企業等の福利厚生支援事業	47
VIII その他	
1 中小企業等の福利厚生事業	48
2 中小企業退職金共済制度（中退共）	48
3 勤労者福祉施設	48
IX 問合せ・相談窓口一覧	49

I 労働法について

1 労働法とは何でしょう

労働法といっても、労働法という名前の法律があるわけではありません。

労働に関するたくさんの法令をひとまとめにして「労働法」と呼んでいます。

労働法の基本理念は、憲法第 25 条の「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。」という生存権の保障に由来しています。

また、憲法第 27 条は、第 1 項で「すべて国民は、勤労の権利を有し、義務を負ふ。」とし、第 2 項で「賃金、就業時間、休息その他の勤労条件に関する基準は、法律でこれを定める。」と労働条件については法律が関与することをうたっています。

さらに、憲法第 28 条は、「勤労者の団結する権利及び団体交渉その他の団体行動をする権利は、これを保障する。」として、団結権、団体交渉権、団体行動権のいわゆる労働三権を保障しています。

労働法は、これら憲法の規定の具体的な展開と見ることができます、労働者の保護や労使関係の安定等に寄与しています。

労働法は、次のように大別されます。

●労働条件に関する法律

- ・労働契約法 　・労働基準法 　・最低賃金法 　・賃金の支払の確保等に関する法律
- ・労働安全衛生法 　・家内労働法 　・雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律 　・短時間労働者及び有期雇用労働者の雇用管理の改善等に関する法律

●雇用の確保・安定に関する法律

- ・労働施策の総合的な推進並びに労働者の雇用の安定及び職業生活の充実等に関する法律
- ・職業安定法 　・高年齢者等の雇用の安定等に関する法律 　・障害者の雇用の促進等に関する法律
- ・労働者派遣事業の適正な運営の確保及び派遣労働者の保護等に関する法律
- ・中小企業における労働力の確保及び良好な雇用の機会の創出のための雇用管理の改善の促進に関する法律 　・地域雇用開発促進法 　・職業能力開発促進法 　・職業訓練の実施等による特定求職者の求職支援に関する法律 　・女性の職業生活における活躍の推進に関する法律

●社会保険・労働保険に関する法律

- ・健康保険法 　・厚生年金保険法 　・雇用保険法 　・労働者災害補償保険法

●労働者福祉の増進に関する法律

- ・中小企業退職金共済法 　・勤労者財産形成促進法 　・勤労青少年福祉法
- ・育児休業、介護休業等育児または家族介護を行う労働者の福祉に関する法律

●労使関係に関する法律

- ・労働組合法 　・労働関係調整法 　・個別労働関係紛争の解決の促進に関する法律
- ・障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律

II 就職するときに

1 仕事をさがす

【問合せ：相談窓口 P49・50】

職種や勤務地、労働条件（賃金・労働時間・休日・休暇）等、自分に合った条件をはっきりさせ、ハローワーク（公共職業安定所）等の公的機関、民間職業紹介機関、求人広告、インターネットを活用し、就職活動を行いましょう。

また、集めた情報で不明点があれば電話等で確認しましょう。

●ハローワーク（公共職業安定所）

・ハローワーク甲府（甲府公共職業安定所）甲府市住吉 1-17-5 Tel 055-232-6060

<https://jsite.mhlw.go.jp/yamanashi-roudoukyoku/hw/2-3-5.html>



●やまなし・しごと・プラザ（山梨県とハローワークによる一体的実施事業）

「ジョブカフェやまなし」、「山梨県求職者総合支援センター」、「山梨県子育て就労支援センター」の3つの施設で成り立っています。

- ・「ジョブカフェやまなし」：概ね15歳から39歳までの若年者を対象に、キャリアカウンセリング等の就労相談を行っています。
- ・「山梨県求職者総合支援センター」：概ね40歳以上の中高齢者を対象に、職業相談や職業紹介、生活・就労相談を行っています。
- ・「山梨県子育て就労支援センター」：子育て中の方を対象に、職業相談や職業紹介、子育て支援制度の情報提供等を行っています。

○やまなし・しごと・プラザ 甲府市飯田 1-1-20 JA会館5階

<https://job.pref.yamanashi.jp/index.jsp>



1 ジョブカフェやまなし（概ね15歳から39歳）

- ① 就労相談 Tel 055-233-4510

2 山梨県求職者総合支援センター（概ね40歳以上）

<https://job.pref.yamanashi.jp/ykssc/index.html>



- ① 生活・就労相談 Tel 055-233-4510

- ② 職業紹介等 Tel 055-226-8609

3 山梨県子育て就労支援センター（子育て中の方）

<https://job.pref.yamanashi.jp/kosodate/index.html>



- ① 就労相談、子育て支援制度の情報提供等 Tel 055-233-4510

- ② 職業紹介等 Tel 055-226-1188

○甲府新卒応援ハローワーク（ヤングハローワーク） 甲府市飯田 1-1-20 JA会館5階

卒業予定者 及び 卒業後3年以内の既卒者等 職業紹介等 Tel 055-221-8609

<https://jsite.mhlw.go.jp/yamanashi-roudoukyoku/hw/2-3-5/younghellowork.html>



●インターネットでの求人検索

インターネットから、求人情報を検索することができます。さらに、ハローワークインターネットサービス上に「マイページ」を開設すると、求人検索条件の保存等のサービスをご利用いただけます。

・ハローワークインターネットサービス

<https://www.hellowork.mhlw.go.jp/index.html>



●若者サポートステーション

・やまなし若者サポートステーション

「働く」への一歩を踏み出したい 15 歳から 49 歳までのお仕事をされていない方や就学中でない方たちとじっくりと向き合い、本人やご家族の方々だけでは解決が難しい「働き出す力」を引き出し、「職場定着するまで」を全面的にバックアップします。 <https://ycca.jp/yss/>



●ワークプラザ甲府（甲府市とハローワークによる一体的就労支援）

市が行う福祉関連の生活相談と、ハローワークが行う職業紹介等を市役所内で一体的に行う就労支援を行っています。一般の求職者の方も、ご利用いただけます。求人検索システムを利用した、求人情報の検索と閲覧もできます。お気軽にご利用ください。

なお、就労支援を主な目的としているため、求人申込や雇用保険に関する業務は取り扱っておりません。

・ワークプラザ甲府（甲府市役所本庁舎 2 階） TEL 055-237-1161（内線 4930）受付専用

<https://www.city.kofu.yamanashi.jp/rose/h261126-workplazakofu1.html>



●山梨へUターン、Iターン、Jターン、移住等をお考えの方に

【問合せ：相談窓口 P50】

都会に近く、自然がいっぱいの山梨に暮らしたいとお考えの方に、住まいや生活、就職情報等、ワンストップでご相談いただけます。

・やまなし暮らし支援センター TEL 080-1600-5730

（東京都千代田区有楽町 2-10-1 東京交通会館 8 階 ふるさと回帰支援センター内）

<https://www.yamanashi-kankou.jp/yamanashikurashi/>



・やまなしU・Iターン就職情報コーナー大阪 TEL 06-6344-5961

（大阪府大阪市北区梅田 1-1 大阪駅前第 3 ビル 21 階 山梨県大阪事務所内）

<http://www.osaka-furusato.com/area/yamanashi/>



II 就職するときに

2 職業能力開発(職業訓練等)

【問合せ：相談窓口 P51】

在職者や再就職を目指す方等への能力開発・技術訓練を支援する公共施設があります。

※再就職を目指す方の公的職業訓練（ハロートレーニング）については、ハローワーク甲府訓練担当部門にご相談ください。

3 労働契約と労働条件の明示

労働者は、就職するときに、使用者と労働契約（雇用契約）を結びます。

使用者は、労働契約の締結に際し、労働者に対して賃金、労働時間その他の労働条件を明示しなければなりません。

また、明示された労働条件が事実と相違している場合は、労働者は、即時に労働契約を解除することができます。
（労働基準法第15条）

— 明示しなければならない労働条件 —（労働基準法施行規則第5条）

- 1 労働契約の期間に関すること。
 - 2 有期労働契約を更新する場合の基準に関すること。（通算契約期間又は有期労働契約の更新回数に上限がある場合には当該上限を含む。）
 - 3 仕事をする場所及び従事すべき業務に関すること。（就業の場所及び従事すべき業務の変更の範囲を含む。）
 - 4 始業及び終業の時刻、所定労働時間を超える労働の有無、休憩時間、休日・休暇並びに労働者を二組以上に分けて就業させる場合における就業時転換（交代制）に関すること。
 - 5 賃金（7、8に定める賃金を除く。）の決定、計算及び支払方法、締切及び支払の時期、昇給に関すること。
 - 6 退職に関すること。（解雇の事由を含む。）
 - 7 退職手当の定めが適用される労働者の範囲、退職手当の決定、計算及び支払の方法並びに退職手当の支払の時期に関すること。
 - 8 臨時の賃金、賞与、1か月を超える期間を要件とする手当等に関すること。
 - 9 労働者に負担させるべき食費、作業用品その他に関すること。
 - 10 安全及び衛生に関すること。
 - 11 職業訓練に関すること。
 - 12 災害補償及び業務外の傷病扶助に関すること。
 - 13 表彰及び制裁に関すること。
 - 14 休職に関すること。
- ★ 1～6までは、「昇給に関する事項」を除き、書面の交付が必要となります。（労働者が希望する場合は電子メール等の送信による明示でも可能）
- ★ 7～14までは、慣行となっている場合も含めて定めがある場合には必ず明示します。
- ★ パートタイム・有期雇用労働者の場合は、1～14に加え、「昇給の有無」、「退職手当の有無」、「賞与の有無」、「相談窓口」についても書面の交付等により明示しなければなりません。
- ★ 有期契約労働者については、「無期転換申込権」が発生する契約更新のタイミングごとに、無期転換を申し込むことができる旨（無期転換申込機会）及び無期転換後の労働条件の明示も必要です。

労働者は、就職が決まって働きはじめてから、労働条件や職場環境が内容と異なることがないよう、確認しましょう。

4 就業規則について

【問合せ：相談窓口 P52】

常時 10 人以上の労働者（パートタイム労働者を含む。）を使用する事業場において、事業主は必ず就業規則を定めて、労働基準監督署に届け出ることとなっています。（労働基準法第 89 条）

就業規則は、通常の労働者に適用される就業規則のほかに、パートタイム労働者等一部の労働者のみに適用される個別の就業規則が定められている場合があります。

就業規則の基準に達しない労働契約は、その部分が無効になります。（労働契約法第 12 条）

5 労働契約の禁止事項

会社を転職したくなったときや、今よりももっと良い条件のアルバイト先を見つけたときに、途中で辞めるとペナルティとして罰金を取られるという条件があっては、辞めることができなくなります。

そこで、労働法では、労働者が不当に会社に拘束されないように、労働契約を結ぶときに、会社が契約に盛り込んではならない条件を定めています。

(1) 労働者が労働契約に違反した場合に違約金を支払わせることや、その額をあらかじめ決めておくこと。（労働基準法第 16 条）

例えば、会社が労働者に対し、「1 年未満で会社を退職したときは、ペナルティとして罰金 10 万円」、「会社の備品を壊したら 1 万円」等と、あらかじめ決めておいたとしても、それに従う必要はありません。もっとも、これは、あらかじめ賠償額について定めておくことを禁止するものですので、労働者が故意や不注意で、現実に会社に損害を与えてしまった場合は、損害賠償請求を免れるというわけではありません。

(2) 労働することを条件にお金を前貸しし、毎月の給料から一方的に天引きする形で返済させること。（労働基準法第 17 条）

会社からの借金のために、辞めたくても辞められなくなるのを防止するためです。

(3) 強制的に会社にお金を積み立てさせること。（労働基準法第 18 条）

積み立ての理由は関係なく、社員旅行費等労働者の福祉のためでも、強制的に積み立てさせることは禁止されています。ただし、社内預金制度等、労働者の意思に基づき賃金の一部を会社に委託することについては、一定の要件のもとで許されています。

6 採用内定について

新規学卒者の採用においては、就職活動、採用試験の後、実際に入社する日よりかなり前に採用の内定をもらうのが一般的ですが、この採用内定にはどのような意味があるのでしょうか。

行きたい会社から「春からうちに来てください。」と言われたら、その会社で働くことを期待するのが当然ですし、突然、「なかったことにする。」と言われては、予定が変わってしまいます。

採用内定により、労働契約が成立したと認められる場合には、内定取り消しは、契約の解約となるとされています。

したがって、通常の解雇と同様、社会の常識に照らして納得できる理由がなければなりません。もっとも、学校を卒業できなかったり、所定の免許・資格が取得できなかったり、健康状態が悪化して

II 就職するときに

動くことが困難になったり、履歴書の記載内容に重大な虚偽記載があったり、刑事事件を起こしてしまった場合等は、内定取り消しが正当と判断され得ます。

ただし、内定取り消しが有効である場合でも、通常の解雇と同様、会社は解雇予告等の手続をきちんと行う必要があります。また、内定者が内定取り消しの理由について、証明書を請求した場合は、すぐに証明書を交付しなければなりません。

このほか、自宅待機を含む「入職時期遅延」や「一方的な労働条件の変更」、「内定辞退の強要」等の問題に遭遇した場合は、自分ひとりで判断せず、学校やハローワーク、労働相談コーナー等に相談しましょう。

就職のしくみ（新規大学等卒業者の場合）

就職活動をはじめよう

民間就職サイトでのエントリー等、本格的な就職活動を開始する時期は、3月からとなります。その頃には希望する業種や職種、譲れない条件等の検討や自分がどんな仕事がしたい、自分の強みは何なのか等の自己分析を行っておきます。

①興味のある仕事（業種）を考えよう

はじめは、自分が何に興味があるのか、どんな仕事があるのか等わからないかもしれません。大学等のキャリアセンター等で相談してみましょう。

また、自分が何に興味があるのかを明確化するためには、合同企業説明会等で色々な業種の説明を聞いたり、インターンシップへの参加、OB・OG訪問、民間就職サイトや専門誌等調査し、情報に触れることが大切です。

②どんな仕事をしたいのかを考えよう

業種を選ぶのと同時に職種を選ぶことも重要となります。同じ企業に入った場合でも、例えば、営業なのか、企画なのか、研究部門なのかで、仕事の内容が違ってきます。自分の働きたい職種を明確にしましょう。

③企業についてよく知ろう

働きたい業種と職種が決まったら、その業種の企業のホームページや、就職サイト、専門誌等を利用して詳細に調査しましょう。企業の個別の説明会で直接説明を聞いたり、その他、インターンシップの受入れをしている企業もあるので、ホームページやキャリアセンター等で確認してみましょう。

※有名企業でなくても、優れた技術や将来性のある企業はたくさんありますので、有名企業以外も良く調べてみましょう。

④企業に応募しよう

企業の情報を得たあとは、その企業に応募するかどうか決めます。

応募の手順は、企業によって違いますので、応募したい企業のホームページ等をよく調べて応募しましょう。

※甲府新卒応援ハローワーク（P2 参照）では、①～④について、専門の資格（キャリアコンサルタント）をもった職員が一緒に手伝いしております。どうぞお気軽にご利用ください（予約不要）。

III 働いているときに（働くときのルール）

1 労働時間・賃金・休暇等

どんな仕事でも、長時間続けて働くことは心身ともに大きな負担となります。

近年は、過労によるストレス等が問題となっています。労働者が働きすぎにならないように、労働時間や休憩・休日についても決まりがあります。

(1) 労働時間・休日

●法定労働時間

（労働基準法第32条、40条）

法定労働時間とは、労働基準法で定められた1日及び1週間の最長労働時間のことです。

労働基準法では、1日の労働時間 ⇒ 8時間以内

1週間の労働時間 ⇒ 40時間以内 と定められています。

なお、常時10人未満の商業、映画・演劇業（映画の製作の事業を除く）、保健衛生業、接客娯楽業は、特例として、1週間の労働時間 ⇒ 44時間以内 と定められています。

また、繁忙期に労働時間を長くする代わりに、閑散期の労働時間を短くする等、業務の繁閑に応じて労働時間の配分を行おうとする場合、「1か月単位の変形労働時間制」「フレックスタイム制」「1年単位の変形労働時間制」「1週間単位の非定型的変形労働時間制」の4つの変形労働時間制が認められています。

●法定休日

休日とは、労働契約において労働義務がないとされている日のことで、法定休日とは、労働基準法において、毎週少なくとも1日または4週間を通じて4日以上の休日を与えることとされています。（労働基準法第35条）

●時間外労働・休日労働に関する協定（36協定、サブロク協定）

法定労働時間を超えて労働者が働く場合は、あらかじめ労働組合または従業員の過半数代表者と使用者の間で、「時間外労働・休日労働に関する協定」を締結し、労働基準監督署に届け出なければなりません。（労働基準法第36条）

平成31年4月1日（中小事業主は令和2年4月1日）から、36協定により延長できる時間外労働の上限（限度時間）が法律で規制され、原則「月45時間・年360時間」となっています。また、限度時間を超えて労働時間を延長しなければならない臨時の事情により特別条項を定めた場合であっても、次の上限の範囲内としなければなりません。

上 限	① 時間外労働は年720時間以内
	② 時間外労働と休日労働の合計は月100時間未満
	③ 時間外労働と休日労働の合計について、2~6か月平均で月80時間以内
	④ 時間外労働が月45時間を超えることができるには、年6か月が限度

*時間外労働・休日労働は必要最小限にとどめられるべきであり、労働時間の延長は原則として限度時間を超えないものとされていることを十分認識した上で36協定を締結する必要があります。

III 働いているときに（働くときのルール）

事業・業務	取扱い
建設事業 ^(※1)	<ul style="list-style-type: none"> ●災害の復旧・復興の事業を除き、上限規制がすべて適用されます。 ●災害の復旧・復興の事業には、時間外労働と休日労働の合計について、 <ul style="list-style-type: none"> ✓月 100 時間未満 ✓2~6か月平均 80 時間以内 とする規制は適用されません。
自動車運転の業務 ^(※1)	<ul style="list-style-type: none"> ●特別条項付き 36 協定を締結する場合の年間の時間外労働の上限が 960 時間となります。 ●時間外労働と休日労働の合計について、 <ul style="list-style-type: none"> ✓月 100 時間未満 ✓2~6か月平均 80 時間以内 とする規制は適用されません。 ●時間外労働が月 45 時間を超えることができるのは年6か月までとする規制は適用されません。
医業に従事する医師	<ul style="list-style-type: none"> ●特別条項付き 36 協定を締結する場合の年間の時間外・休日労働の上限が最大 1,860 時間となります^(※2)。 ●時間外労働と休日労働の合計について、 <ul style="list-style-type: none"> ✓2~6か月平均 80 時間以内 とする規制は適用されません。 ●時間外労働が月 45 時間を超えることができるのは年6か月までとする規制は適用されません。 ●医療法等に追加的健康確保措置に関する定めがあります。 <p>※2 医業に従事する医師の一般的な上限時間（休日労働含む）は年960 時間/月 100 時間未満（例外的に月 100 時間未満の上限が適用されない場合がある）。 地域医療確保暫定特例水準（B・連携B水準）又は集中的技能向上水準（C水準）の対象の医師の上限時間（休日労働含む）は年 1,860 時間/月 100 時間未満（例外的に月 100 時間未満の上限が適用されない場合がある）。</p>

※1 建設事業及び自動車運転の業務については、働き方改革関連法施行後の労働時間の動向その他の事情を勘案しつつ、上限規制の特例の廃止について引き続き検討するものとされている（働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律附則第12条第2項）。

（2）休憩時間

1日の労働時間が6 時間を超える場合 ⇒ 45 分以上

1日の労働時間が8 時間を超える場合 ⇒ 1 時間以上の休憩時間が与えられます。

休憩時間は、労働時間の途中に、原則として一斉に与えられ、自由に利用できます。

（労働基準法第 34 条）

（3）時間外・休日・深夜労働と割増賃金

時間外労働 ⇒ 法定労働時間を超えて働くこと

休日労働 ⇒ 法定休日に働くこと

深夜労働 ⇒ 22 時～翌 5 時までの間に働くことをいいます。

上記の労働をした場合は、割増賃金が支払われなければなりません。

（労働基準法第 37 条）

割増率・計算式		
時間外労働	休日労働	深夜労働
25%以上	35%以上（ただし、振替休日は除く。）	25%以上
計算式：通常賃金の1時間分の賃金×割増率×時間数		

※1か月60時間を越える時間外労働については、50%以上の割増賃金を支払わなければなりません。
中小企業についても令和5年4月1日から適用されています。

(4) 年次有給休暇

【問合せ：相談窓口 P52】

年次有給休暇とは、所定の休日以外に仕事を休んでも賃金が支払われる休暇のことです。労働者の心身の疲労を回復させ、仕事と生活の調和を図るためにも休暇の取得は大切です。

雇われた日から6か月間継続して勤務し、所定労働日数の8割以上出勤した場合、休暇が与えられます。
(労働基準法第39条)

なお、平成31年4月1日から、年次有給休暇の一部取得が義務化されています。具体的には、年10日以上の年次有給休暇が付与される労働者に対して、年次有給休暇の日数のうち年5日については、使用者が時季を指定して取得させる必要があります。ただし、労働者自身の時季指定、あるいは、労使協定に基づく計画的付与制度により、年5日以上の年次有給休暇を取得する労働者については、この義務が免除されます。

年次有給休暇の付与日数									
所定労働時間	週の所定労働日数	1年間の所定労働日数（週以外の期間で労働日数が定められている場合）	勤続期間						
			6か月	1年 6か月	2年 6か月	3年 6か月	4年 6か月	5年 6か月	
週30時間未満	5日以上	217日以上	10日	11日	12日	14日	16日	18日	20日
	4日	169～216日	7日	8日	9日	10日	12日	13日	15日
	3日	121～168日	5日	6日	6日	8日	9日	10日	11日
	2日	73～120日	3日	4日	4日	5日	6日	6日	7日
	1日	48～72日	1日	2日	2日	2日	3日	3日	3日

※労使協定の締結により、年に5日を限度として、年次有給休暇を時間単位で取得できます。

(5) 賃金

賃金とは、給料、手当、賞与その他名称に関わらず、労働の対価として支払われる全てのものをいいます。
(労働基準法第11条)

●賃金支払の5原則

賃金の支払には5つの原則があります。

- ① 通貨で
- ②直接本人に
- ③全額を
- ④毎月1回以上
- ⑤一定の期日に 支払わなければなら

III 働いているときに（働くときのルール）

ないことです。

(労働基準法第24条)

- ・本人の同意があれば、銀行等の口座振込によって支払うことができます。
- ・労使協定や本人の同意等、一定の措置を講じた場合、厚生労働大臣が指定した資金移動業者の口座（いわゆる〇〇ペイなどのキャッシュレス決済口座）振込によって支払うことができます。
- ・所得税や社会保険料等の法令で決められたものや、社内預金等（労使間で協定した場合のみ）は、賃金から差し引くことが認められています。

●最低賃金制度

最低賃金制度とは、最低賃金法に基づき、国が最低賃金を定め、それより低い賃金を原則認めない制度です。

都道府県ごとに、地域別最低賃金及び特定最低賃金が定められ、使用者は、最低賃金額以上の賃金を支払わなければなりません。

仮に、最低賃金より低い賃金を労使間の合意で定めても、それは法律により無効とされ、最低賃金と同額の定めをしたものとみなされます。

【問合先】 山梨労働局賃金室 Tel:055-225-2854

山梨県の最低賃金			
区分		1時間当たりの最低賃金額	発効年月日
地域別	山梨県最低賃金	1,052円	令和7年12月1日
特定最低賃金	電子部品・デバイス・電子回路、電気機械器具、情報通信機械器具製造業	1,052円*	改正審議中
	自動車・同附属品製造業	1,089円*	令和8年3月1日

* 特定最低賃金について、自動車関係についてはその効力が発生する令和8年3月1日まで、電気関係については、改正後の金額が効力を発生するまでの間は、山梨県最低賃金である1,052円が適用。

2 母性保護・母性健康管理

【問合せ：相談窓口 P52】

労働基準法は、母性保護の見地から必要な措置が定められています。

また、男女雇用機会均等法では、女性労働者が母性を尊重されながら充実した職業生活を営むことができるようにするための措置が定められています。

（1）産前産後休業

使用者は、産前6週間（双子以上の場合は14週間）以内の女性労働者から請求があった場合は、就業させてはなりません。また、産後8週間を経過しない女性は就業させてはなりません。

ただし、産後6週間を経過後、本人が請求した場合で、医師が支障が無いと認めた業務には就業させることができます。

また、休業中の賃金については、法の定めはなく、通常就業規則等で定められています。

休業中無給の場合は、健康保険の保険給付として、産前6週間（双子以上の場合は14週間）、産後8週間を限度として、1日につき標準報酬日額の3分の2程度が出産手当金として支給されます。

休業期間中は、事業主が申請することにより、健康保険・厚生年金保険料の免除が受けられます。

(2) 軽易な業務への転換

妊娠中の女性労働者は、身体への負担を軽くするため、他の軽い業務へ転換することを事業主に請求できます。
(労働基準法第 65 条)

(3) 労働時間の制限

妊娠中及び産後 1 年以内の女性労働者には、フレックスタイム制以外の変形労働時間制の適用は制限され、時間外・休日・深夜労働をしないことを事業主に請求できます。 (労働基準法第 66 条)

(4) 育児時間

生後 1 年未満の子を育てる女性労働者は、休憩時間とは別に 1 日 2 回、各々少なくとも 30 分の育児時間を事業主に請求できます。
(労働基準法第 67 条)

(5) 生理休暇

使用者は、生理日の就業が著しく困難な女性が休暇を請求したときは、その者を生理日に就業させではありません。
(労働基準法第 68 条)

(6) 妊産婦等に係る危険有害業務の就業制限

使用者は、妊娠中の女性及び産後 1 年を経過しない女性（妊娠婦）について、重量物を取り扱う業務や有毒ガスを発散する場所における業務等、危険有害業務に就業させてはなりません。
(労働基準法第 64 条の3)

○関連法令

- ・労働安全衛生法
- ・女性労働基準規則
- ・特定化学物質障害予防規則
- ・鉛中毒予防規則
- ・有機溶剤中毒予防規則

※労働安全衛生法施行令等の一部改正により、妊娠婦や出産・授乳機能に影響のある 26 の化学物質のうち、ステレン、テトラクロロエチレン、トリクロロエチレンの 3 物質が「有機溶剤中毒予防規則の措置対象物質」から「特定化学物質障害予防物質規則の措置対象物質」となりました。これにより、これらの 3 物質は所定の屋内作業場における業務が就業禁止の対象となります。

(7) 健康診査のための時間の確保・指導事項を守るための措置(母性健康管理措置)

事業主は、妊娠中及び出産後 1 年以内の女性労働者に、保健指導や健康診査を受けるために必要な時間を確保することができるようしなければなりません。
(男女雇用機会均等法第 12 条)

また、その雇用する女性労働者が保健指導又は健康診査に基づく指導事項を守ることができるようするために、妊娠中の時差勤務、休憩時間の延長、労働時間の短縮・休業、作業の制限等の必要な措置を講じなければなりません。
(男女雇用機会均等法第 13 条)

医師等からの指導事項を事業主に的確に伝えることができるよう、「母性健康管理指導事項連絡カード」(厚生労働省ホームページから様式をダウンロードできます。) を利用しましょう。

III 働いているときに（働くときのルール）

(8) 不利益取扱いの禁止

妊娠、出産、産前産後休業を請求・取得したこと、妊娠中の時差勤務等同法に基づく母性健康管理措置を受けたこと、深夜業の免除等労働基準法に基づく母性保護措置を受けたこと、妊娠または出産に起因する症状により労務提供ができないことまたは能率が低下したこと等を理由とする解雇その他不利益な取扱いを禁止しています。また、妊娠中・産後1年以内の解雇は、事業主が「妊娠、出産、産前産後休業を取得したこと等による解雇でないこと」を証明しない限り、無効となります。

（男女雇用機会均等法第9条）

「不利益な取扱い」とは、解雇、契約を更新しないこと、退職の強要、正社員をパートとするような労働契約内容の変更を強要すること、減給、賞与等において不利益な算定を行うこと、不利益な配分の変更を行うこと等が該当します。

3 仕事と育児・介護・治療の両立支援

【問合せ：相談窓口 P52・53】

働き続けながら育児や介護に携わる労働者を支援するために、育児・介護休業法で各種制度が定められています。一定の要件を満たせば、期間を定めて雇用されている労働者も各種制度が利用できます。介護は育児と異なり、ある日突然始まることもあり、介護を行う期間・方策もさまざまで仕事と介護の両立に不安を抱え、離職を考える方も少なくありません。介護で離職する前に、まずは介護を受けている方がお住まいの地域包括支援センターへご相談ください。

甲府市地域包括支援センターについてはこちらでご確認ください。

<https://www.city.kofu.yamanashi.jp/korefukushi/kenko/fukushi/kaigo/jigyosho/hokatsu-02.html>



甲府市には9か所の地域包括支援センターがあり、市内の企業向けに「家族介護教室」を実施しています。介護保険制度の知識や、介護の準備、身近な支援制度の活用方法等を紹介します。働く世代の方にも役立つ内容となっていますので、ぜひご活用ください。（問合せ：地域保健課 地域保健係 055-237-1173）

また、がん、糖尿病、肝炎などの病気を抱えながら働く労働者が治療の機会を逃したり、治療を理由に就労を避けられなくなったりすることのないよう、「治療と仕事の両立支援」の取組も進められています。

甲府市では、働く世代の健康づくりを促進するため、事業所向けに「働く世代の健康づくり講座」を実施しています。専門職（保健師等）が事業所へ出向き、身近なテーマでわかりやすく講座を行います。健康づくりは日々の積み重ねが大切です。まずは職場での“ちょっとした時間”を活用して取り組んでみませんか。（問合せ：地域保健課 保健予防係 055-237-2505）



(1) 育児・介護休業法における制度の概要

	育児関係	介護関係
子の看護等休暇	制度の内容	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校第3学年修了までの子を養育する労働者は、1年度に5日まで(その養育する小学校第3学年修了までの子が2人以上の場合は10日まで)、病気・けがをした子の看護、子の予防接種・健康診断を受けさせること、感染症に伴う学級閉鎖等になった子の世話、又は子の入園(入学)式、卒園式への参加のために、休暇が取得できる ○時間単位での取得も可能
	対象労働者	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校第3学年修了までの子を養育する労働者(日々雇用を除く) ○労使協定で対象外にできる労働者 <ul style="list-style-type: none"> ・週の所定労働日数が2日以下の労働者
介護休暇	制度の内容	<ul style="list-style-type: none"> ○要介護状態にある対象家族の介護その他の世話をを行う労働者は、1年度に5日まで(対象家族が2人以上のは10日まで)、介護その他の世話をを行うために、休暇が取得できる ○時間単位での取得も可能
	対象労働者	<ul style="list-style-type: none"> ○要介護状態にある対象家族の介護その他の世話をを行う労働者(日々雇用を除く) ○労使協定で対象外にできる労働者 <ul style="list-style-type: none"> ・週の所定労働日数が2日以下の労働者
所定外労働を制限する制度	制度の内容	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校就学の始期に達するまでの子を養育する労働者がその子を養育するために請求した場合においては、事業主は所定労働時間を超えて労働させてはならない
	対象労働者	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校就学の始期に達するまでの子を養育する労働者(日々雇用を除く) ○労使協定で対象外にできる労働者 <ul style="list-style-type: none"> ・勤続1年未満の労働者 ・週の所定労働日数が2日以下の労働者
	期間・回数	<ul style="list-style-type: none"> ○1回の請求につき1か月以上1年以内の期間 ○請求できる回数に制限なし
	手続	○開始日の1か月前までに請求
	例外	○事業の正常な運営を妨げる場合は、事業主は請求を拒める
時間外労働を制限する制度	制度の内容	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校就学の始期に達するまでの子を養育する労働者がその子を養育するために請求した場合においては、事業主は制限時間(1か月24時間、1年150時間)を超えて労働時間を延長してはならない
	対象労働者	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校就学の始期に達するまでの子を養育する労働者 <ul style="list-style-type: none"> ただし、以下に該当する労働者は対象外 ・日々雇用される労働者 ・勤続1年未満の労働者 ・週の所定労働日数が2日以下の労働者
	期間・回数	<ul style="list-style-type: none"> ○1回の請求につき1か月以上1年以内の期間 ○請求できる回数に制限なし
	例外	○事業の正常な運営を妨げる場合は、事業主は請求を拒める
	手續	○開始日の1か月前までに請求

III 働いているときに（働くときのルール）

		育児関係	介護関係
子の看護等休暇	制度の内容	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校第3学年修了までの子を養育する労働者は、1年度に5日まで(その養育する小学校第3学年修了までの子が2人以上の場合は10日まで)、病気・けがをした子の看護、子の予防接種・健康診断を受けさせること、感染症に伴う学級閉鎖等になった子の世話、又は子の入園(入学)式、卒園式への参加のために、休暇が取得できる ○時間単位での取得も可能 	
	対象労働者	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校第3学年修了までの子を養育する労働者(日々雇用を除く) ○労使協定で対象外にできる労働者 <ul style="list-style-type: none"> ・週の所定労働日数が2日以下の労働者 	
介護休暇	制度の内容	<ul style="list-style-type: none"> ○要介護状態にある対象家族の介護その他の世話をを行う労働者は、1年度に5日まで(対象家族が2人以上の中には10日まで)、介護その他の世話をを行うために、休暇が取得できる ○時間単位での取得も可能 	
	対象労働者	<ul style="list-style-type: none"> ○要介護状態にある対象家族の介護その他の世話をを行う労働者(日々雇用を除く) ○労使協定で対象外にできる労働者 <ul style="list-style-type: none"> ・週の所定労働日数が2日以下の労働者 	
所定外労働を制限する制度	制度の内容	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校就学の始期に達するまでの子を養育する労働者がその子を養育するために請求した場合においては、事業主は所定労働時間を超えて労働させてはならない 	<ul style="list-style-type: none"> ○要介護状態にある対象家族を介護する労働者がその対象家族を介護するために請求した場合においては、事業主は所定労働時間を超えて労働させてはならない
	対象労働者	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校就学の始期に達するまでの子を養育する労働者(日々雇用を除く) ○労使協定で対象外にできる労働者 <ul style="list-style-type: none"> ・勤続1年未満の労働者 ・週の所定労働日数が2日以下の労働者 	<ul style="list-style-type: none"> ○要介護状態にある対象家族を介護する労働者(日々雇用を除く) ○労使協定で対象外にできる労働者 <ul style="list-style-type: none"> ・勤続1年未満の労働者 ・週の所定労働日数が2日以下の労働者
	期間・回数	<ul style="list-style-type: none"> ○1回の請求につき1か月以上1年以内の期間 ○請求できる回数に制限なし 	<ul style="list-style-type: none"> ○1回の請求につき1か月以上1年以内の期間 ○請求できる回数に制限なし
	手続	○開始日の1か月前までに請求	○開始日の1か月前までに請求
	例外	○事業の正常な運営を妨げる場合は、事業主は請求を拒める	○事業の正常な運営を妨げる場合は、事業主は請求を拒める
時間外労働を制限する制度	制度の内容	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校就学の始期に達するまでの子を養育する労働者がその子を養育するために請求した場合においては、事業主は制限時間(1か月 24 時間、1年 150 時間)を超えて労働時間を延長してはならない 	<ul style="list-style-type: none"> ○要介護状態にある対象家族を介護する労働者がその対象家族を介護するために請求した場合においては、事業主は制限時間(1か月 24 時間、1年 150 時間)を超えて労働時間を延長してはならない
	対象労働者	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校就学の始期に達するまでの子を養育する労働者 ただし、以下に該当する労働者は対象外 <ul style="list-style-type: none"> ・日々雇用される労働者 ・勤続1年未満の労働者 ・週の所定労働日数が2日以下の労働者 	<ul style="list-style-type: none"> ○要介護状態にある対象家族を介護する労働者 ただし、以下に該当する労働者は対象外 <ul style="list-style-type: none"> ・日々雇用される労働者 ・勤続1年未満の労働者 ・週の所定労働日数が2日以下の労働者
	期間・回数	<ul style="list-style-type: none"> ○1回の請求につき1か月以上1年以内の期間 ○請求できる回数に制限なし 	<ul style="list-style-type: none"> ○1回の請求につき1か月以上1年以内の期間 ○請求できる回数に制限なし
	例外	○事業の正常な運営を妨げる場合は、事業主は請求を拒める	○事業の正常な運営を妨げる場合は、事業主は請求を拒める
	手続	○開始日の1か月前までに請求	○開始日の1か月前までに請求

III 働いているときに（働くときのルール）

		育児関係	介護関係
深夜業を制限する制度	制度の内容	<p>○小学校就学の始期に達するまでの子を養育する労働者がその子を養育するために請求した場合においては、事業主は午後10時～午前5時（「深夜」）において労働させなければならない</p>	<p>○要介護状態にある対象家族を介護する労働者がその対象家族を介護するために請求した場合においては、事業主は午後10時～午前5時（「深夜」）において労働させなければならない</p>
	対象労働者	<p>○小学校就学の始期に達するまでの子を養育する労働者 ただし、以下に該当する労働者は対象外</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々雇用される労働者 ・勤続1年未満の労働者 ・保育ができる同居の家族がいる労働者 保育ができる同居の家族とは、16歳以上であって、イ 深夜に就労していないこと（深夜の就労日数が1か月につき3日以下の者を含む） 口 負傷、疾病又は心身の障害により保育が困難でないこと ハ 6週間（多胎妊娠の場合は14週間）以内に出産する予定であるか、又は産後8週間を経過しない者でないこと のいずれにも該当する者をいう ・週の所定労働日数が2日以下の労働者 ・所定労働時間の全部が深夜にある労働者 	<p>○要介護状態にある対象家族を介護する労働者 ただし、以下に該当する労働者は対象外</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々雇用される労働者 ・勤続1年未満の労働者 ・介護ができる同居の家族がいる労働者 介護ができる同居の家族とは、16歳以上であって、イ 深夜に就労していないこと（深夜の就労日数が1か月につき3日以下の者を含む） 口 負傷、疾病又は心身の障害により介護が困難でないこと ハ 6週間（多胎妊娠の場合は14週間）以内に出産する予定であるか、又は産後8週間を経過しない者でないこと のいずれにも該当する者をいう ・週の所定労働日数が2日以下の労働者 ・所定労働時間の全部が深夜にある労働者
	期間・回数	<p>○1回の請求につき1か月以上6か月以内の期間 ○請求できる回数に制限なし</p>	<p>○1回の請求につき1か月以上6か月以内の期間 ○請求できる回数に制限なし</p>
	手続	<p>○開始日の1か月前までに請求</p>	<p>○開始日の1か月前までに請求</p>
	例外	<p>○事業の正常な運営を妨げる場合は、事業主は請求を拒める</p>	<p>○事業の正常な運営を妨げる場合は、事業主は請求を拒める</p>
	所定労働時間の短縮措置等	<p>○3歳に満たない子を養育する労働者（日々雇用を除く）であって育児休業をしていないもの（1日の所定労働時間が6時間以下である労働者を除く）に関して、1日の所定労働時間を原則として6時間とする措置を含む措置を講ずる義務 ただし、労使協定で以下の労働者のうち所定労働時間の短縮措置を講じないものとして定められた労働者は対象外</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 勤続1年未満の労働者 2 週の所定労働日数が2日以下の労働者 3 業務の性質又は業務の実施体制に照らして、所定労働時間の短縮措置を講ずることが困難と認められる業務に従事する労働者 <p>○上記3の労働者について、所定労働時間の短縮措置を講じないとするとときは、当該労働者について次の措置のいずれかを講ずる義務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育児休業に関する制度に準ずる措置 ・テレワーク等の措置 ・フレックスタイム制 ・始業・終業時刻の繰上げ、繰下げ ・事業所内保育施設の設置運営その他これに準ずる便宜の供与 	<p>○用介護状態にある対象家族を介護する労働者（日々雇用を除く）に関して、対象家族1人につき次の措置のいずれかを、利用開始から3年以上の間に2回以上の利用を可能とする措置を講ずる義務（④の措置は1回とすることが可能）</p> <ul style="list-style-type: none"> ①所定労働時間を短縮する制度 ②フレックスタイム制 ③始業・終業時刻の繰上げ、繰下げ ④労働者が利用する介護サービスの費用の助成その他これに準ずる制度 <p>ただし、労使協定で以下の労働者のうち所定労働時間の短縮措置等を講じないものとして定められた労働者は対象外</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 勤続1年未満の労働者 2 週の所定労働日数が2日以下の労働者

III 働いているときに（働くときのルール）

	育児関係	介護関係
柔軟な働き方を実現するための措置	<p>○3歳から小学校就学の始期に達するまでの子を養育する労働者に関して、以下①～⑤から2つ以上の措置を選択して講ずる義務</p> <p>①始業時刻等の変更の措置 ②テレワーク等の措置(10日以上/月) ③育児のための所定労働時間の短縮措置 ④就業しつ子を養育することを容易にするための休暇(養育両立支援休暇)の付与(10日以上/年) ⑤保育施設の設置運営その他これに準ずる便宜の供与</p> <p>○労働者は、事業主が講じた措置の中から1つを選択して利用することが可能</p> <p>○事業主が講ずる措置を選択する際、過半数労働組合等からの意見聴取の機会を設ける義務</p>	
柔軟な働き方を実現するための措置の個別周知	<p>○労働者の子が3歳になるまでの適切な時期に、柔軟な働き方を実現するための措置として選択した制度(対象措置)に関する以下の①～③を個別に周知し、制度利用の意向を確認する義務</p> <p>① 対象措置 ② 対象措置の申出先 ③ 所定外労働の制限(残業免除)、時間外労働の制限、深夜業の制限に関する制度</p>	
育児・介護休業等の個別周知	<p>○本人又は配偶者の妊娠・出産等を労働者が申し出た場合に、事業主は当該労働者に対して、以下の事項を個別に周知し、取得意向を確認する義務</p> <p>①育児休業・産後リバ育休に関する制度 ②育児休業・産後リバ育休の申出先 ③育児休業給付、出生後休業支援給付に関すること ④休業期間中の社会保険料の取扱い</p>	<p>○介護に直面した旨を労働者が申し出た場合に、事業主は当該労働者に対して以下の事項を個別に周知し、取得意向を確認する義務</p> <p>①介護休業に関する制度、介護両立支援制度等 ②介護休業・介護両立支援制度等の申出先 ③介護休業給付金に関すること</p>
個別の意向聴取・配慮	<p>○労働者が本人又は配偶者の妊娠・出産等を申し出た時と、労働者の子が3歳になるまでの適切な時期に、子や各家庭の事情に応じた仕事と育児の両立に関する以下の事項について労働者の意向を個別に聴取し、その意向について配慮する義務</p> <p>① 始業及び終業の時刻 ② 就業の場所 ③ 両立支援制度等の利用期間 ④ 仕事と育児の両立に資する就業に関する条件</p>	
労働者への情報提供		<p>○仕事と介護の両立支援制度を十分活用できないまま介護離職に至ることを防止するため、労働者が介護に直面する早い段階(40歳等)で、介護休業、介護両立支援制度等(※)、申出先及び介護休業給付に関する情報提供を行う義務</p> <p>※ i 介護休暇に関する制度、ii 所定外労働の制限に関する制度、iii 時間外労働の制限に関する制度、iv 深夜業の制限に関する制度、v 介護のための所定労働時間の短縮等の措置</p>
労働者の配置に関する配慮	<p>○就業場所の変更を伴う配置の変更において、就業場所の変更により就業しつ子の養育や家族の介護を行うことが困難となる労働者がいるときは、その子の養育や家族の介護の状況に配慮する義務</p>	

(2) 社会保険制度

- ア 育児休業期間中は、事業主が申請をすることにより、健康保険・厚生年金保険料の被保険者負担分、事業主負担分の免除が受けられます。また、一定の要件を満たせば雇用保険から育児休業給付金が支給されます。
- イ 介護休業期間中は、一定の要件を満たせば雇用保険から介護休業給付金が支給されます。

(3) 法の実効性の確保 (育児・介護休業法第52条の4~5、56条、56条の2、66条)

- 都道府県労働局長による紛争解決の援助制度
- 調停制度
- 報告の徴収、助言、指導、勧告及び勧告に従わない場合の公表制度
- 報告を求めた場合に報告をせず、または虚偽の報告をした者に対する過料

(4) 不利益取扱いの禁止

(育児・介護休業法第10条外)

育児・介護休業法では、育児・介護休業、子の看護休暇、介護休暇、所定外労働の制限、育児・介護のための時間外労働の制度、深夜業の制限及び所定労働時間の短縮措置の申出をしたこと、または利用したこと等を理由とする解雇その他不利益な取扱いを禁止しています。

(5) 両立支援等助成金制度

国は、労働者の仕事と家庭の両立を支援する事業主等のために、次のような助成金制度を設けています。

- ・出生時両立支援コース（子育てパパ支援助成金）
- ・介護離職防止支援コース　・育児休業等支援コース　・育休中等業務代替支援コース
- ・柔軟な働き方選択制度等支援コース　・不妊治療及び女性の健康課題対応両立支援コース

(6) ファミリーサポートセンター (甲府市上石田3-6-31 中央部幼児教育センター内)

「育児の援助を受けたい人」と「育児の援助を行いたい人」を会員とし、相互援助を行う組織です。援助対象となるのは、甲府市に住所を有している、生後3か月程度の乳幼児から小学生までです。

ファミリーサポートセンター Tel:055-223-2253

https://www.city.kofu.yamanashi.jp/jidoikuse/kenko/kosodate/shien/famisapo_boshu.html



(7) 治療関係

治療が必要な疾病を抱える労働者が、業務によって疾病を増悪させること等がないよう、事業場において適切な就業上の措置を行いつつ、治療に対する配慮が行われるようにするため、事業場における取組等が「事業場における治療と仕事の両立支援のためのガイドライン」にまとめられています。

ガイドラインには、関係者の役割、事業場における環境整備、個別の労働者への支援の進め方等が取りまとめられています。

III 働いているときに（働くときのルール）

【ガイドラインのポイント】

〈両立支援を行うための環境整備〉

- 事業者による基本方針等の表明と労働者への周知 ○研修等による両立支援に関する意識啓発
- 相談窓口等の明確化 ○両立支援に関する制度・体制等の整備

〈両立支援の進め方〉

- ① 両立支援を必要とする労働者が、支援に必要な情報を収集して事業者に提出。労働者からの情報が不十分な場合、産業医等または人事労務担当者等が、労働者の同意を得た上で主治医から情報収集することも可能
- ② 事業者が、産業医等に対して収集した情報を提供し、就業継続の可否、就業上の措置及び治療に対する配慮に関する産業医等の意見を聴取
- ③ 事業者が、主治医及び産業医等の意見を勘案し、就業継続の可否を判断
- ④ 事業者が労働者の就業継続が可能と判断した場合、就業上の措置及び治療に対する配慮の内容・実施時期等を事業者が検討・決定し、実施
- ⑤ 事業者が労働者の長期の休業が必要と判断した場合、休業開始前の対応・休業中のフォローアップを事業者が行うとともに、主治医や産業医等の意見、本人の意向、復帰予定の部署の意見等を総合的に勘案し、職場復帰の可否を事業者が判断した上で、職場復帰後の就業上の措置及び治療に対する配慮の内容・実施事項等を事業者が検討・決定し、実施

(8) 不妊治療関係

近年の晩婚化等を背景に不妊治療を受ける夫婦が増加しており、働きながら不妊治療を受ける方は増加傾向にあると考えられています。不妊治療には時間を要することが多く、体力的・精神的な負担も大きい一方で、職場における不妊治療への理解が十分でないことから、休暇等のサポート制度の導入があまり進んでいない状況にあります。

このような状況から、仕事と不妊治療の両立ができず、仕事を辞めたり、雇用形態を変えたりする方もいます。仕事と不妊治療の両立について職場の理解を深め、従業員が働きやすい環境を整えることは、有能な人材の確保という点で企業にもメリットがあるはずです。

①不妊治療を目的とした休職・休暇制度取組例

不妊治療休職制度、出生支援休職制度、失効年休の積立休暇制度等

②両立支援のための柔軟な働き方の取組例

フレックスタイム制度、半日単位・時間単位の年次有給休暇制度、テレワーク制度等

○プライバシーへの配慮について

- ・不妊や不妊治療に関するることは、その従業員のプライバシーに属することです。従業員自身から相談や報告があった場合でも、本人の意思に反して職場全体に知れ渡ってしまうことが起こらないよう、プライバシーの保護に配慮する必要があります。
- ・また、職場での従業員の意に反する性的な言動（性的な事実を尋ねる、性的な冗談やからかい等）はセクシャルハラスメントになる可能性がありますので注意が必要です。

4 性別による差別の禁止

【問合せ：相談窓口 P52】

労働基準法では、女性であることを理由として、賃金について男性と差別的な取扱いをしてはならないこと、また、男女雇用機会均等法では、雇用の分野における性別を理由とする差別の禁止等を定めています。

(1) 男女同一賃金の原則

労働者が女性であることを理由として、賃金について男性と差別的取扱いをすることは禁じられています。
(労働基準法第4条)

(2) 性別を理由とした差別の禁止

募集・採用、配置（業務の配分及び権限の付与を含む）・昇進・降格・教育訓練、福利厚生、職種・雇用形態の変更、退職の勧奨・定年・解雇・労働契約の更新における性別による差別は禁止されています。
(男女雇用機会均等法第5条、6条)

(3) ポジティブ・アクション

男女労働者間に事実上生じている差を解消するために、事業主が、女性のみを対象とするまたは女性を有利に取り扱う措置は法違反となりません。女性の管理職への登用や職域の拡大、能力開発の研修等を行うような自主的かつ積極的な取組を行う事業主に対し、国は相談その他の援助を行っています。
(男女雇用機会均等法第14条)

(4) 法の実効性の確保 (男女雇用機会均等法第17条、18条、29条、30条、33条)

- 都道府県労働局長による紛争解決の援助制度
- 調停制度
- 報告の徴収、助言、指導、勧告及び勸告に従わない場合の公表制度
- 報告を求めた場合に報告をせず、または虚偽の報告をした者に対する過料

5 職場環境・健康診断

【問合せ：相談窓口 P53】

事業者は、労働者が仕事をしていく上での安全に配慮する義務があります。
そのためには、働きやすい職場環境を整えて、労働者への負荷や影響を少なくすることが大切です。
また、労働者も、事業者が行う安全衛生活動に積極的に参加・協力することが必要です。

(1) 作業管理・作業環境管理

事業者は、機械器具その他の設備による危険や爆発物等による危険を防止するための措置を講じなければなりません。
(安衛法第20条)

情報機器の使用にあたっては労働衛生管理に配慮する必要があります。
また、高温多湿な環境下での業務は、適切な作業管理と労働者の健康管理に注意を払い、特に夏期においては、熱中症予防対策等の措置を講じる必要があります。

■情報機器作業における労働衛生管理について

情報機器を使った作業を長時間行うことによって起こる様々な症状には次のようなものが挙げられます。

眼の症状	痛み、疲れ、ドライアイ、視力低下等
腕・肩・首の症状	肩こり、痛み、しびれ等
精神的な症状	イライラする、不眠、憂鬱な気分等

III 働いているときに（働くときのルール）

○ 必ず休憩を取りましょう

作業者が、心身の負担が少なく作業を行うことができるよう、下記のような作業時間や休憩時間が勧められています。

1日の作業時間 ⇒ 他の作業を組み込むことまたは他の作業とローテーションを実施すること等により、1日の連続情報機器作業時間が短くなるよう配慮すること

→ 連続作業時間 ⇒ 1時間を超えないようにすること

作業休止時間 ⇒ 連続作業と連続作業の間の10~15分の作業休止時間を設けること

小休止 ⇒ 一連続作業時間において、1~2回程度の小休止を設けること

※目安としては、45分の作業につき10~15分の作業休止時間を設けることが必要です。

■熱中症について

ア 热中症って何？

甲府盆地は、寒暖の差が大きい盆地特有の内陸性気候で、夏は、日本でも1、2を争う高温になります。特に高温多湿な環境のもとで働くときは、「**熱中症**」に気をつけなければなりません。

「**熱中症**」は、高温多湿な環境下で働くとき等に、体内の水分や塩分のバランスが崩れたり、体の調整機能がうまく働かないことにより、体内に熱がたまり、筋肉痛や大量の発汗、さらには吐き気や倦怠感等の症状が現れ、重症になると意識障害等が起こります。

イ 热中症の症状

- ・めまい、立ちくらみ、手足のしびれ、筋肉のこむら返り、気分が悪い
- ・頭痛、吐き気、嘔吐、倦怠感、虚脱感、いつもと様子が違う
重症になると・・・
- ・返事がおかしい、意識がない、けいれん、身体が熱い

こまめに水分を補給しましょう。

室内でも、外出時でも、のどの渇きを感じなくても、こまめに水分・塩分、経口補水液等を補給することが大切です。

ウ 热中症への対策

① 暑さ指数（WBGT）の活用

暑さ指数であるWBGT（湿球黒球温度）を求め、労働者の熱への順化（熱に慣れ、その環境に適応すること）の有無及び作業内容等ごとに定められた基準値を超える場合には、身体作業強度の低い作業への変更等の対策に努めるとともに、基準値を超える場合には下記の②以下の対策の徹底を図ります。

② 作業環境管理

作業場所の冷房等による暑さ指数（WBGT）の低減、休憩場所の整備等を図りましょう。

③ 作業管理

休憩時間等を確保すること、身体作業強度が高い作業を避けること等に努めましょう。

また、計画的に、熱への順化期間（熱に慣れ、その環境に適応する期間）を設けることが望ましいです。自覚症状の有無にかかわらず、作業前後及び作業中の水分・塩分の定期的な摂取の徹底を図る。透湿性及び通気性の良い服装等を着用しましょう。

④ 健康管理

糖尿病、高血圧症、心疾患、腎不全等は熱中症の発症に影響を与えるおそれのあることから、健康診断の実施、異常所見に対する医師等の意見の聴取、当該意見を勘案した就業場所の変更等の適切な措置の徹底を図りましょう。

睡眠不足、体調不良、前日等の飲酒、朝食の未摂取等が熱中症の発症に影響を与えるおそれがあるため、日常の健康管理の指導を行うとともに、必要に応じ健康相談を行ってください。

作業開始前、作業中の巡視により労働者の健康状態の確認等を行いましょう。

⑤ 労働衛生教育の実施

熱中症に関する次の労働衛生教育を行いましょう。

- ①熱中症の症状
- ②熱中症の予防方法
- ③緊急時の救急処置
- ④熱中症の事例

⑥ 救急処置

緊急連絡網の作成及び周知、熱中症を疑わせる症状が現れた場合は、必要に応じて救急隊の要請等を行いましょう。

エ 熱中症が疑われる人を見かけたら

- ① 涼しい場所へ移す・・・・・ エアコンが効いている室内や風通しの良い日陰等、涼しい場所へ避難させる。
- ② からだを冷やす・・・・・ 衣服をゆるめ、からだを冷やす。
- ③ 水分補給する・・・・・ 水分・塩分、経口補水液等を補給する。

自力で水が飲めないときや、意識がない場合は、すぐに救急車を呼びましょう！

★労働安全衛生規則 改正のポイント（令和7年4月15日改正 同年6月1日から施行）

熱中症の恐れがある労働者を早期に見つけ、その状況に応じ、迅速かつ適切に対処することにより、熱中症の重篤化を防止するため、「体制整備」、「手順作成」、「関係者への周知」が事業者に義務付けられます。

対象となるのは

「WBGT28度以上又は気温31度以上の環境下で連続1時間以上又は1日4時間を超えて実施」が見込まれる作業となります。



III 働いているときに（働くときのルール）

(2) 安全衛生教育の義務

事業者は、労働者を雇い入れたときや作業内容を変更したときは、法令に定められた項目について、労働者に安全衛生教育を実施しなければなりません。 (安衛法第59条)

特に、動力プレス、アーク溶接等の危険・有害な業務に就かせるときは、当該業務に関する特別な安全衛生教育を実施しなければならないと定められています。

また、建設業、自動車整備業その他政令で定める業種については、新たに職長等指導・監督者になった者に対して安全衛生教育を実施しなければなりません。 (安衛法第60条)

(3) 労働安全衛生管理体制

事業者は、労働安全衛生法の規定により次の者を選任し法定の業務を行わせなければなりません。

名 称	選任が必要な事業場
総括安全衛生管理者 (安衛法10条)	① 林業、鉱業、建設業、運送業、清掃業で労働者100人以上の事業場 ② 製造業、電気業、ガス・水道業、通信業、各種商品卸・小売業、旅館業、ゴルフ場業、自動車整備業等で労働者300人以上の事業場 ③ その他の業種で労働者1,000人以上の事業場
安全管理者 (安衛法11条)	建設業、運送業、清掃業、製造業、電気業、通信業、各種商品卸・小売業、旅館業、ゴルフ場業、自動車整備業等、上記①及び②の業種で労働者50人以上の事業場
衛生管理者 (安衛法12条)	労働者50人以上の全ての事業場
産業医 (安衛法13条)	労働者50人以上の全ての事業場
作業主任者 (安衛法14条)	労働安全衛生法施行令第6条各号の作業を行う事業場
安全衛生推進者 (安衛法12条の2)	労働者10人以上50人未満の安全管理者の選任を要する業種の事業場
衛生推進者 (安衛法12条の2)	労働者10人以上50人未満の安全管理者の選任を要する業種以外の業種の事業場

※労働者の人数は、常時働く労働者の数

(4) 健康診断

事業者は、労働者を雇い入れたときと、その後1年以内ごとに1回定期的に一般健康診断を受けさせなければなりません。また、深夜業務や放射線業務、有害物の取扱い等の特定業務に就いている労働者には、6ヶ月以内ごとに1回の健康診断を受けさせなければなりません。

(安衛法第66条)

さらに、一定の粉じん業務、有機溶剤取扱業務及び特定化学物質業務等に就いている労働者には、特殊健康診断を受けさせなければなりません。

また、事業者は健康診断項目に異常の所見がある労働者について、その労働者の健康を保持するために必要な措置について、医師等からの意見を聴かなければなりません。

さらに、事業者は、医師等からの意見を勘案し、必要があると認めるときは、当該労働者の実情を考慮して、就業場所の変更、作業の転換、労働時間の短縮、深夜業の回数の減少等の措置を講ずるほか、作業環境測定の実施、施設または設備の設置または整備、当該医師または歯科医師の意見の衛生委員会若しくは安全衛生委員会または労働時間等設定改善委員会への報告その他の適切な措置を講じなければなりません。

(安衛法第66条の4、66条の5)

(5) ストレスチェック制度

労働者が50人以上の事業場において、毎年1回、全ての労働者に対して、ストレスチェック検査を実施することが必要です。（契約期間が1年未満の者や、労働時間が通常の労働者の所定労働時間の4分の3未満の短時間労働者は義務の対象外です。）
(安衛法第66条の10)

ア ストレスチェックとは何でしょうか。

「ストレスチェック」は、ストレスに関する質問票に労働者が記入し、それを集計・分析することで、自分のストレスがどのような状態にあるのかを調べる簡単な検査です。

イ 何のためにするのでしょうか。

自分のストレスの状態を知ることで、ストレスを溜め過ぎないように対処したり、医師の面接を受けたり、職場改善につなげたりすることで、メンタルヘルスの不調を未然に防止するための仕組みです。本人に通知するものほか、原則10人以上の集団（部、課、グループ等）ごとの集計・分析もでき、職場環境の改善につなげることができます。

ウ 制度の概要

① ストレスチェックの実施

- ・常時使用する労働者に対して、1年以内ごとに1回、ストレスチェックを実施することが事業者の義務となっています。
- ・ストレスチェックは、医師・保健師等が実施します。
- ・ストレスチェックの調査票には、「仕事のストレス要因」、「心身のストレス反応」、「周囲のサポート」の3領域を含みます。
- ・ストレスチェックの結果は直接本人に通知し、本人の同意がない限りは事業者に提供してはいけません。

② 面接指導の実施

- ・高ストレスと評価された労働者から申出があった時は、医師による面接指導を行うことが事業者の義務になります。また、申出を理由とする不利益な取扱いは禁止されます。
- ・事業者は、面接指導の結果に基づき、医師の意見を勘案し、必要があると認める時は、就業上の措置を講じる必要があります。

③ ストレスチェック制度は、労働者の個人情報が適切に保護され、不正な目的で利用されないようにすることで、労働者も安心して受け、適切な対応や改善に繋げられる仕組みです。

(安衛法第66条の10)

(6) 高年齢労働者の安全衛生対策

働く高齢者が増え、それに伴い、高年齢労働者の労働災害も増加しています。このため、高年齢労働者が安心して安全に働く職場環境づくり等が重要です。国は、「高年齢労働者の安全と健康確保のためのガイドライン（エイジフレンドリーガイドライン）」を策定しました。同ガイドラインでは、高年齢労働者を雇用する事業者と労働者に求められる取り組みが具体的に示されています。

〈事業者に求められる事項〉

以下の1～5について、高年齢労働者の就労状況や業務の内容等の実情に応じ、国や関係団体等による支援も活用して、実施可能な労災防止対策に積極的に取り組む必要があります。

1 安全衛生管理体制の確立等

III 働いているときに（働くときのルール）

- ・経営トップ自らが安全衛生方針を表明し、担当する組織や担当者を指定
- ・高年齢労働者の身体機能の低下等による労働災害についてリスクアセスメントを実施

2 職場環境の改善

- ・照度の確保、段差の解消、補助機器の導入等、身体機能の低下を補う設備・装置の導入等のハード面対策
- ・勤務形態等の工夫、ゆとりのある作業スピード等、高年齢労働者の特性を考慮した作業管理等のソフト面の対策

3 高年齢労働者の健康や体力の状況の把握

- ・健康診断や体力チェックにより、事業者、高年齢労働者双方が当該高年齢労働者の健康や体力の状況を客観的に把握

4 高年齢労働者の健康や体力の状況に応じた対応

- ・健康診断や体力チェックにより把握した個々の高年齢労働者の健康や体力の状況に応じて、安全と健康の点で適合する業務をマッチング
- ・集団及び個々の高年齢労働者を対象に身体機能の維持向上に取り組む

5 安全衛生教育

- ・十分な時間をかけ、写真や図、映像等、文字以外の情報も活用した教育を実施
- ・再雇用や再就職等で経験のない業種や業務に従事する高年齢労働者には、特に丁寧な教育訓練を実施

＜労働者に求められる事項＞

事業者が実施する労働災害防止対策の取組に協力するとともに、自己の健康を守るための努力の重要性を理解し、自らの健康づくりに積極的に取り組むよう努めます。

【具体的な取組】

- ・自らの身体機能や健康状況を客観的に把握し、健康や体力の維持管理に努める
- ・法定の定期健康診断を必ず受けるとともに、法定の健診の対象とならない場合には、地域保健や保険者が行う特定健康診査等を受ける
- ・体力チェック等に参加し、自身の体力の水準を確認する
- ・日頃からストレッチや軽いスクワット運動等を取り入れ、基礎的体力の維持に取り組む
- ・適正体重の維持、栄養バランスの良い食事等、食習慣や食行動の改善

6 社会保険

【問合せ：相談窓口 P53・54】

労働者・事業主・国が保険料を負担し、病気、ケガ、失業、老後等に備え、助け合う制度です。

健康保険、厚生年金保険、雇用保険、労災保険（労働者災害補償保険）をまとめた総称を「社会保険」と言います。

令和6年10月から短時間労働者に対する健康保険・厚生年金保険の適用が拡大されています

1. 現行の短時間労働者に対する健康保険・厚生年金保険の適用

特定適用事業所^{*1}で働くパート・アルバイト等の短時間労働者は、一定の要件^{*2}を満たすことで、健康保険厚生年金保険の被保険者となります。

また、特定適用事業所でなくても労使合意を得ることで、任意特定適用事業所^{*3}になるための申請ができます。

※1 特定適用事業所とは

事業主が同一である一または二以上の適用事業所で、被保険者（短時間労働者を除く）の総数が50人を超える事業所

※2 短時間労働者が被保険者となる一定の要件とは

- ・週の所定労働時間が20時間以上であること
- ・雇用期間が2ヶ月を超えて見込まれることこと
- ・賃金の月額が88,000円以上であること
- ・学生でないこと

※3 任意特定適用事業所とは

国または地方公共団体に属する事業所および特定適用事業所以外の適用事業所で、労使合意に基づき、短時間労働者を健康保険・厚生年金保険の適用対象とする申出をした適用事業所です。任意特定適用事業所についての詳細は「任意特定適用事業所申し出・取消申し出の手続き」をご確認ください。

(1) 健康保険・厚生年金保険

【問合せ：相談窓口 P53】

	健康保険	厚生年金保険
内 容	労働者やその家族が、仕事以外で病気、ケガ、出産、死亡した場合に、治療代等が給付される。	労働者が老齢、障害等で働けなくなった場合、死亡した場合に、年金や一時金が本人やその家族に給付される。
適 用 事 業 所	1人でも常時雇用している法人事業所、5人以上を常時雇用している個人事業所(一部の業種を除く)は加入しなければならない。また、これ以外の事業所でも、従業員の1/2以上の同意があれば、事業主が厚生労働大臣の認可を受けて加入することができる。	
被 保 険 者	上記の事業所に雇用されている労働者(日々雇用されている労働者等の一部を除く)は自動的に被保険者になる。	
保 険 料	労働者と事業主が半額ずつ負担。ただし、加入対象者は満75歳未満。	労働者と事業主が半額ずつ負担。ただし、加入対象者は満70歳未満。

III 働いているときに（働くときのルール）

給付	<ul style="list-style-type: none"> ・病気、ケガの治療にかかる療養費 ・傷病手当金 ・出産育児一時金 ・埋葬料 ・出産手当金 ・高額療養費等 	<ul style="list-style-type: none"> ・老齢年金 被保険者期間を有する者が 65 歳に達したときに支給される。ただし、60 歳から支給される場合もある。 ・障害年金 被保険者の労働が著しく制限される等、一定の障害状態になった場合に支給される。 ・遺族年金 被保険者または被保険者であった者が死亡したときに、残された配偶者等に対して支給される。
その他	<p>退職後は、市町村役場で国民健康保険に加入することが必要。 (被保険者期間 2 か月以上かつ退職日の翌日から 20 日以内に申請の場合、健康保険の任意継続も可能)</p>	<p>年金を受取るには、一定期間保険料を払っていることが条件で、年金額はこの期間と働いていたときの賃金額（報酬）に応じて決まる。</p>

【健康保険・厚生年金保険の適用に関する問合先】

- ・甲府年金事務所 甲府市塩部 1-3-12 Tel055-252-1431 音声案内「3」

【年金給付に関する問合先】

- ・甲府年金事務所 甲府市塩部 1-3-12 Tel055-252-1431 音声案内「1」

【健康保険の給付に関する問合先】

- ・ご加入の保険の保険者（全国健康保険協会・各健康保険組合等）

問合せ 適用拡大の内容は、日本年金機構ホームページをご覧いただくな、最寄りの年金事務所にお尋ねください。

【日本年金機構ホームページ】 <https://www.nenkin.go.jp>



「ねんきんネット」で 24 時間いつでもどこでもパソコンやスマートフォンからご自身の年金記録を確認することができます。

【ねんきんネット】 https://www.nenkin.go.jp/n_net/



マイナンバーカードをお持ちの方は

マイナポータルの「年金記録・見込額を見る（ねんきんネット）」からも簡単に「ねんきんネット」が始められます。

マイナポータル
にログイン

「年金記録・見込額を見る」
(ねんきんネット) から連携

「ねんきんネット」
そのまま利用開始

(2) 雇用保険

【問合せ：相談窓口 P54】

内 容	労働者が退職または解雇等で失業した場合の給付や、育児・介護休業給付、助成金等が受けられる。 ※「失業」とは、「就職しようとする意思といつでも就職できる能力があるにもかかわらず職業に就けず、積極的に求職活動を行っている状態にある」ことをいう。
適 用 事 業 所	労働者を1人でも雇用している事業所（一部を除く）は加入する必要がある。
被 保 險 者	上記の事業所に雇用されている労働者は被保険者となる。 短時間就労者等については、1週間の所定労働時間が20時間以上で、31日以上継続して雇用されることが見込まれる人は雇用保険の被保険者となる。
保険料	労働者負担(6/1,000～7/1,000) 事業主負担(9.5/1,000～11.5/1,000)（令和6年10月現在）
給 付	<ul style="list-style-type: none"> • 失業給付（求職者給付） <p>離職前6か月間に支払われた賃金総額を180で割った額のおよそ45～80%に相当する額（60歳以上65歳未満はおよそ50～80%に相当する額）が、基本手当として支給される。</p> <p>基本手当を受けることのできる日数は、雇用されていた期間、年齢及び離職の理由に応じて個々に決定される。</p> • 高年齢雇用継続給付 <p>60歳以上65歳未満の場合で、賃金が60歳時点に比べて相当程度（75%未満）低下した状態で働いている場合に、その差額の一部が支給される。</p> • 育児休業給付 <p>育児休業を取得し1歳未満（一定の場合は1歳6か月または2歳）の子どもを養育する場合に、基本給付金（休業前賃金月額の67%、ただし、育児休業の開始から6か月経過後は50%）が支給される。なお、支給単位期間中に賃金支払日がある場合で、支払われた賃金（育児休業期間のみを対象とした賃金）の額が、休業開始時賃金日額×支給日数の30%を超えるときは支給額が減額され、80%以上のとき、給付金は支給されない。</p> • 一般教育訓練の教育訓練給付金 <p>指定の教育訓練を受講し修了した場合に、本人が教育訓練施設に支払った教育訓練経費の20%に相当する額（上限10万円）が支給される。</p> • 特定一般教育訓練の教育訓練給付金 <p>指定の特定一般教育訓練を受講し、修了した場合に、本人が教育訓練施設に支払った教育訓練経費の40%に相当する額（上限20万円）が支給される。（※令和6年9月30日までに受講開始された訓練）なお、令和6年10月1日以降に受講開始された訓練であって、受講後に要件を満たした場合は、更に10%（上限5万円）の上乗せ支給対象。</p> • 専門実践教育訓練の教育訓練給付金 <p>指定の専門実践教育訓練を受講し修了した場合に、本人が教育訓練施設に支払った教育訓練経費の一定の割合額（受講中は50%（上限年間40万円）、受講後に要件を満たした場合は、更に最大で20～30%の上乗せ支給対象）が支給される。</p> • 専門実践教育訓練の教育訓練支援給付金 <p>専門実践教育訓練を受講される方のうち、一定の条件を満たした方が失業状態にある場合に、雇用保険の日額に相当する額が支給される。</p>

III 働いているときに（働くときのルール）

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・退職・解雇の際、事業主がハローワークに提出する離職證明書は、離職者に対する給付の受給資格、給付金額、給付日数の決定の基礎となるため、記載されている賃金、離職理由を確認して署名することが必要。 ・給付を受けるためには、ハローワークへ行き、求職の申込・事業主から交付された離職票の提出による受給資格の決定等の手続を行うことが必要。
-----	---

※給付を受けるに際しては、一定の要件等を満たす必要がありますのでご留意ください。

【雇用保険に関する問合先】

- ・ハローワーク甲府（甲府公共職業安定所） Tel055-232-6060 雇用保険適用課 21#
- ・ハローワーク甲府（甲府公共職業安定所） Tel055-232-6060 雇用保険給付課 11#

(3) 労災保険(労働者災害補償保険)

【問合せ：相談窓口 P54】

内 容	業務上の事由または通勤による負傷や疾病等により治療を受けた場合や障害が残った場合、または死亡した場合に、労働者やその遺族のために必要な給付が受けられる。
適用事業場	原則として、労働者を1人以上雇用している全ての事業主が加入する義務がある。
給付対象者	被災労働者またはその遺族
保 険 料	事業主が全額負担
給 付	<ul style="list-style-type: none"> ・療養（補償）給付 病気やケガが治る（症状固定）まで、労災保険指定医療機関等で治療を受けたときの診療、薬剤等を現物給付される。また、指定医療機関以外等で治療を受けたときは、その治療に要した費用が支給される。 ・休業（補償）給付 療養（治療）のため労働することができず、賃金を受けられない場合の第4日目から支給される。（業務災害の場合、最初の3日分は事業主が補償する） ・障害（補償）給付 病気やケガが治っても、身体に一定の障害が残った場合、その障害の程度に応じて年金または一時金が支給される。 ・遺族（補償）給付 労働者が死亡した場合、その労働者と死亡当時生計維持関係にあった配偶者、子、父母等年金の受給資格をもつ遺族に対しては年金が支給される。なお、年金受給資格者がいない場合は、一時金が支給される。 ・葬祭料（葬祭給付） 死亡した労働者の葬儀を行った人（遺族等）に対して支給される。 ・傷病（補償）年金 療養（治療）を始めてから1年6か月を過ぎても治らず、障害の程度が労災保険法施行規則別表第2の傷病等級表に該当するとき、傷病の程度に応じた年金が支給される。 ・介護（補償）給付 障害または傷病等級第1級の場合、第2級の脊髄損傷等で常時介護を要する場合または随時介護を要する場合に支給される。 ・二次健康診断等給付 職場の定期健康診断等の結果、肥満、血圧、血糖、血中脂質の4項目全てに異常の所見が認められた場合は、二次健康診断と特定保健指導を受けることができる。

【労災保険に関する問合先】

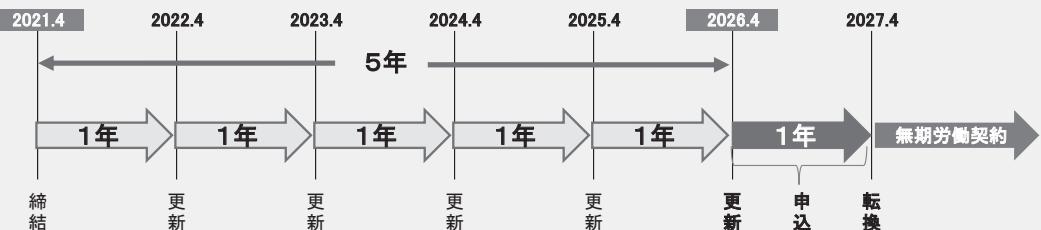
- ・甲府労働基準監督署労災課 甲府市下飯田2-5-51 Tel055-224-5619

7 無期転換ルール

無期転換ルールとは？

有期労働契約が更新されて通算5年を超えたときは、労働者の申込みにより、期間の定めのない労働契約（無期労働契約）に転換できるルールです。通算5年のカウントは平成25年4月1日以降に開始した有期労働契約が対象です。（労働契約法第18条：平成25年4月1日施行）

【例：令和3年4月から、1年間の有期労働契約を更新し続けている場合】



※無期労働契約の労働条件（職務、勤務地、賃金、労働契約等）は、別段の定め（労働協約、就業規則、個々の労働契約）がない限り、直前の有期労働契約と同一となります。労働条件を変える場合は、別途、就業規則の改定等が必要です。

対象となる労働者

原則として、契約期間に定めがある「有期労働契約」が同一の会社で通算5年を超える全ての方が対象です。契約社員やパートタイマー、アルバイト、派遣社員等の名称は問いません。

企業の皆様へ（特に有期契約労働者を雇用している場合はご注意ください）

- ◆ 無期転換ルールへの対応はお済みですか？
- ◆ 無期転換ルールへ対応は、中長期的な人事管理も踏まえ、無期転換後の役割や労働条件等を検討し、社内規定を整備する等、一定の時間を要します。
- ◆ まだ対応ができない場合は早急に取りかかりましょう。

有期労働契約で働く皆さんへ

- ◆ 平成30年4月以降、有期労働契約で働く多くの方に、無期転換申込権が発生しています。
- ◆ 期間の定めのない労働契約に転換することで、雇用が安定し、安心して働き続けることに繋がります。
- ◆ まずはこのようなルール・権利について知り、自身のキャリア形成の選択肢の1つとしてご検討ください。

雇止めについて

無期転換ルールの適用を避けることを目的として、無期転換申込権が発生する前に雇止めをすることは、労働契約法の趣旨に照らして望ましいものではありません。また、有期労働契約の満了前に使用者が更新年限や更新回数の上限等を一方的に設けたとしても、雇止めをすることは許されない場合もありますので、慎重な対応が必要です。

8 高年齢者雇用安定法について

1. 65歳までの雇用機会の確保

(1) 60歳以上定年（高年齢者雇用安定法第8条）

従業員の定年を定める場合は、その定年年齢は60歳以上とする必要があります。

(2) 高年齢者雇用確保措置

定年年齢を65歳未満に定めている事業主は、その雇用する高年齢者の65歳までの安定した雇用を確保するため、「65歳までの定年の引上げ」「65歳までの継続雇用制度の導入」「定年の廃止」のいずれかの措置（高年齢者雇用確保措置）を実施する必要があります。（高年齢者雇用安定法第9条）

「継続雇用制度」とは、雇用している高年齢者を、本人が希望すれば定年後も引き続いて雇用する、「再雇用制度」などの制度をいいます。この制度の対象者は、以前は労使協定で定めた基準によって限定することが認められていましたが、高年齢者雇用安定法の改正により、平成25年度以降、希望者全員を対象とすることが必要となっています。

なお、継続雇用先は自社のみならずグループ会社とすることも認められています。

2. 70歳までの就業機会の確保（令和3年4月1日施行）

高年齢者就業確保措置

定年年齢を65歳以上70歳未満に定めている事業主又は継続雇用制度（70歳以上まで引き続き雇用する制度を除く。）を導入している事業主は以下のいずれかの措置を講ずるよう努める必要があります。（高年齢者雇用安定法第10条の2）

※ただし、創業支援等措置（4.5）については過半数組合・過半数代表者の同意を得て導入。

1. 70歳まで定年年齢を引き上げ
2. 70歳までの継続雇用制度（再雇用制度・勤務延長制度等）を導入（他の事業主によるものを含む）
3. 定年制を廃止
4. 70歳まで継続的に業務委託契約を締結する制度の導入
5. 70歳まで継続的に以下の事業に従事できる制度の導入
 - a. 事業主が自ら実施する社会貢献事業
 - b. 事業主が委託、出資（資金提供）等する団体が行う社会貢献事業

3. 中高年齢離職者に対する再就職の援助

(1) 中高年齢者の再就職援助（高年齢者雇用安定法第15条）

事業主は、解雇等により離職が予定されている45歳以上70歳未満の従業員が希望するときは、求人の開拓など本人の再就職の援助に關し必要な措置を実施するよう努める必要があります。

(2) 求職活動支援書の交付（高年齢者雇用安定法第17条）

事業主は、解雇等により離職が予定されている45歳以上70歳未満の従業員が希望するときは、「求職活動支援書」を作成し、本人に交付する必要があります。

4. 高年齢者雇用に関する届出

(1) 高年齢者雇用状況等報告（高年齢者雇用安定法52条第1項）

事業主は、毎年6月1日現在の高年齢者の雇用に関する状況（高年齢者雇用状況等報告）をハローワークに報告する必要があります。

(2) 多数離職届（高年齢者雇用安定法第16条）

事業主は、1ヶ月以内の期間に45歳以上70歳未満の者のうち5人以上を解雇等により離職させる場合は、あらかじめ、「多数離職届」をハローワークに提出する必要があります。

【問合せ先】

- ・山梨労働局職業安定部職業対策課【高齢者関係】 TEL055-225-2858
- ・ハローワーク甲府（甲府公共職業安定所） TEL055-232-6060【事業所部門31#】

9 職場におけるハラスメント対策

【問合せ：相談窓口 P53】

職場のパワーハラスメントやセクシュアルハラスメント等の様々なハラスメントは、働く人が能力を十分に発揮することの妨げになることはもちろん、個人としての尊厳や人格を不適に傷つける等の人権に関わる許されない行為です。

○ 法律により、ハラスメント防止措置を講じることが事業主に義務付けられているのは、パワーハラスメント、セクシュアルハラスメント、妊娠・出産等、育児・介護休業等に関するハラスメントです。

（労働施策総合推進法第30条の2、男女雇用機会均等法第11条及び第11条の3、育児・介護休業法第25条）

パワーハラスメントは大きく分けて6つの類型があります

身体的な攻撃 暴行・傷害  (例) ●殴打、足蹴りを行う ●相手に物を投げつける	精神的な攻撃 脅迫・名誉毀損・侮辱・ひどい暴言  (例) ●人格を否定するような言動を行う ●長時間にわたって、業務に関する厳しい叱責を繰り返し行う	人間関係からの切り離し 隔離・仲間外し・無視  (例) ●一人の労働者に対して同僚が集団で無視をし、職場で孤立させる
過大な要求 業務上明らかに不要なことや遂行不可能なことの強制・仕事の妨害  (例) ●労働者に業務とは関係のない私的な雑用の処理を強制的に行わせる	過小な要求 業務上の合理性なく能力や経験とかけ離れた程度の低い仕事を命じることや仕事を与えないこと  (例) ●管理職である労働者を退職させるため、誰でも遂行可能な業務を行わせる	個の侵害 私的なことに過度に立ち入ること  (例) ●労働者を職場外で継続的に監視したり、私物の写真撮影をしたりする

セクシュアルハラスメント	妊娠・出産等、育児・介護休業等に関するハラスメント
<p>職場において行われる、労働者の意に反する「性的な言動」に対する労働者の対応によりその労働者が労働条件について不利益を受けたり、「性的な言動」により就業環境が害される行為です。</p> <p>2つの類型があります</p> <p>対価型 労働者の労働条件が不利益を受ける (例)事業主から性的な関係を要求されたが拒否したら、解雇された。</p> <p>環境型 労働者の就業環境が害される (例)上司が労働者の腰、胸などに度々触ったため、その労働者が苦痛に感じて就業意欲が低下。</p>	<p>妊娠・出産した「女性労働者」や、育児・介護休業等を申出・取得した「男女労働者」の就業環境が害される行為です。</p> <p>2つの類型があります</p> <p>制度等の利用への嫌がらせ型 制度又は措置の利用に関する言動により就業環境が害されるもの。 (例)育児休業の取得について上司に相談したところ、「男のくせに育児休業を取るなんてあり得ない」と言われ、取得をあきらめざるを得ない状況になっている。</p> <p>状態への嫌がらせ型 女性労働者が妊娠したこと、出産したこと等に関する言動により就業環境が害されるもの。</p>

出典：https://www.no-harassment.mhlw.go.jp/pdf/syokuba_leaflet6P.pdf

III 働いているときに（働くときのルール）

- ハラスメント防止対策として事業主が必ず講じなければならない具体的な措置の内容は以下のとおりです。

事業主の方針の明確化及びその周知・啓発

- ① 職場におけるハラスメントの内容・ハラスメントを行ってはならない旨の方針等を明確化し、管理監督者を含む労働者に周知・啓発すること
- ② 行為者については、厳正に対処する旨の方針・対処の内容を就業規則等の文書に規定し、管理監督者を含む労働者に周知・啓発すること

相談（苦情を含む）に応じ、適切に対応するために必要な体制の整備

- ③ 相談窓口をあらかじめ定め、労働者に周知すること
- ④ 相談窓口担当者が、相談の内容や状況に応じ、適切に対応できるようにすること

職場におけるハラスメントへの事後の迅速かつ適切な対応

- ⑤ 事実関係を迅速かつ正確に確認すること
- ⑥ 事実関係の確認ができた場合には、速やかに被害者に対する配慮のための措置を適正に行うこと
- ⑦ 事実関係の確認ができた場合には、行為者に対する措置を適正に行うこと
- ⑧ 再発防止に向けた措置を講ずること（事実確認ができなかった場合も含む）

併せて講すべき措置

- ⑨ 相談者・行為者等のプライバシーを保護するために必要な措置を講じ、その旨労働者に周知すること
 - ⑩ 事業主に相談したこと、事実関係の確認に協力したこと、都道府県労働局の援助制度の利用等を理由として解雇その他不利益な取扱いをされない旨を定め、労働者に周知・啓発すること
- 職場における妊娠・出産等、育児・介護休業等に関するハラスメントの原因や背景となる要因を解消するための措置**
- ⑪ 業務体制の整備など、事業主や妊娠等した労働者その他の労働者の実状に応じ、必要な措置を講ずること

- 法の実効性の確保（労働施策総合推進法第30条の5～6、33条、36条、41条、男女雇用機会均等法第17条、18条、29条、30条、33条、育児・介護休業法第52条の4～5、56条、56条の2、66条）

- 都道府県労働局長による紛争解決の援助制度
- 調停制度
- 報告の徴収または請求、助言、指導、勧告及び勧告に従わない場合の公表制度
- 報告を求めた場合に報告をせず、または虚偽の報告をした者に対する過料

- ハラスメント対策の強化のため、法改正がありました（令和7年6月11日公布）

- ・カスタマーハラスメント及び求職者等に対するセクシュアルハラスメント（いわゆる「就活セクハラ」）を防止するための措置を講じることが事業主の義務となります。
- ・公布日（令和7年6月11日）から1年6月以内の政令で定める日に施行されます。

10 労使間でトラブルが起こったら

解雇、賃金の引下げ、配置転換等職場で起こる労使間のトラブルには、最終的な解決手段として裁判制度がありますが、これには長い時間と多くの費用がかかってしまいます。

裁判で争う前に、簡易、迅速、無料で、早期解決をサポートする「個別労働紛争解決制度」があります。これは、次の4つの制度からなっています。

○ 個別労働紛争解決制度

(1) 総合労働相談コーナー

労働問題に関する法令や判例等の情報提供、専門家による相談を実施して、紛争に発展することを未然に防止し、早期に解決することに繋げています。

山梨労働局、労働基準監督署に「総合労働相談コーナー」を設置して、情報提供・相談業務を行っています。

(2) 山梨労働局長による助言・指導

山梨労働局長が紛争当事者に対し、その紛争の問題点を指摘し、解決の方向を示すことにより、紛争当事者の自主的な紛争解決を促進します。

対象となる紛争

- ・解雇　・雇止め　・出向　・労働条件の不利益変更（賃金の引下げ等）
- ・いじめ、嫌がらせ　・会社分割による労働契約の承継
- ・同業他社への就業禁止　等

(3) 紛争調整委員会によるあっせん

○あっせんとは…

紛争当事者間の調整を行い、話し合いを促進することにより、紛争の解決を図る制度です。

公平・中立な第三者として紛争調整委員会が入り、双方の主張の要点を確かめます。双方から求められた場合には、両者に対して具体的なあっせん案を提示します。

○紛争調整委員会とは…

弁護士・大学教授・社会保険労務士等の労働問題の専門家により組織された委員会で、都道府県労働局ごとに設置されています。

(4) 山梨県労働委員会によるあっせん

【問合せ：相談窓口 P56】

○労働委員会とは

弁護士・大学教授・社会保険労務士等の公益を代表する公益委員、労働組合の役員等労働者を代表する労働者委員、会社経営者・経営者団体の役員等使用者を代表する使用者委員で構成される合議制の行政機関で、国と各都道府県に設置されています。

○あっせん

紛争当事者間の調整を行い、話し合いを促進することにより、紛争の解決を図る制度です。山梨県労働委員会の公益委員、労働者委員、使用者委員の各立場から選ばれた3名のあっせん員が間に入り、双方の主張の要点を確かめ、合意形成が可能な場合は、あっせん案を提示します。

※なお、労働者がこれらの制度を利用したことを理由として、事業主が労働者に対して不利益な取扱いをすることは法律で禁止されています。

IV 仕事を辞めるときに

1 退職

【問合せ：相談窓口 P53・54・55】

就業規則などに定められている定年又は労働者からの申し出によって労働契約を終了することを退職といいます。

会社を退職することは、雇用期間に定めがない限り、労働者の自由ですが、予告もせず、いきなり会社に行かなくなるというようなことはルール違反です。

退職は、その意思表示から2週間で効力を生じますが（民法第627条第1項）、会社の就業規則等で「退職予定日の1か月前までに申し出ること」というような規定が定められている場合は、その規定に従って退職手続をする必要があります。

2 解雇

解雇とは、使用者が一方的に労働契約を解除し、仕事を辞めさせることをいいます。

法律では、解雇そのものを禁止してはいませんが、解雇するには、就業規則で明示した合理的な事由がなければなりません。

また、使用者は、労働者を解雇する場合には、少なくとも30日前までに解雇を予告するか、30日前までに予告をしない場合は、予告期間が30日に満たない日数分の平均賃金を支払うことと定められています。
(労働基準法第20条)

●解雇の制限

次のような場合の解雇は、法律で禁止され、又は無効とされています。

- ① 労働者の国籍、信条又は社会的身分を理由とする解雇 (労働基準法第3条)
- ② 業務上の傷病による療養のための休業期間及びその後30日間の解雇 (労働基準法第19条)
- ③ 産前産後の休業期間及びその後30日間の解雇 (労働基準法第19条)
- ④ 労働者が労働基準監督署へ、事業主の労働基準法違反の事実を申告したことを理由とする解雇 (労働基準法第104条)
- ⑤ 労働者が労働組合の組合員であることや、労働組合に加入したり、結成しようとしたことなどを理由とする解雇 (労働組合法第7条)
- ⑥ 労働者が労働委員会へ不当労働行為の救済を申立てたこと、若しくは、労働委員会の調査・審問・争議調整において、証拠を提示したり発言をしたこと等を理由とする解雇 (労働組合法第7条)
- ⑦ 労働者が育児休業、介護休業、子の看護休暇等を申し出たり、それらの休業をしたり、休暇を取得したこと等を理由とする解雇 (育児・介護休業法第10条、16条、16条の4、16条の7、16条の10、18条の2、20条の2、23条の2)
- ⑧ 女性労働者が婚姻、妊娠、出産したこと、産前産後の休業をしたこと等を理由とする解雇 (男女雇用機会均等法第9条第3項)
- ⑨ 妊娠中の女性労働者や出産後1年を経過しない女性労働者に対してなされた解雇 (男女雇用機会均等法第9条第4項)
- ⑩ 公益通報者保護法に基づく公益通報をしたことを理由とする解雇 (公益通報者保護法第3条)
- ⑪ 障害者虐待について市町村又は都道府県に通報又は届出をしたことを理由とする解雇 (障害者虐待防止法第22条)

3 退職・解雇後

就業規則などに退職金の規定があれば、退職金が支払われます。

労働者が、賃金や積立金などの請求をすれば、7日以内に支払われなければなりません。（退職金を除く）。

（労働基準法第23条）

また、退職時には、使用期間、業務の種類、その事業における地位、賃金、退職事由（解雇の場合は、解雇の理由を含む。）について、労働者は退職証明書の交付を請求することができ、使用者は、遅滞なく交付しなければなりません。

（労働基準法第22条）

4 解雇・再就職援助

経済的事情による事業規模の縮小などに伴って、一つの事業所において1ヶ月に30人以上の離職を余儀なくされることが見込まれる場合（30人未満の場合は任意）、事業主は、対象となる労働者の再就職援助のために「再就職援助計画」を作成し、最初の離職者の生ずる1か月前までに公共職業安定所長に提出し、その認定を受け、再就職者の雇用活動を支援しなければなりません。

なお、在職中の求職活動に対する事業主等による支援を促進するために、それを行う事業主等に対し助成金制度が設けられています。

また、一定期間内に、事業規模の縮小などに伴うものかどうかに関わらず、1ヶ月に30人以上の離職を余儀なくされることが見込まれる場合は、大量離職届が義務付けられています。

5 未払賃金の立替払

事業所が倒産して、賃金が支払われないまま退職した場合は、未払となっている賃金の一定範囲について事業主に代わり支払われる制度があります。

6 社会保険の切替、住民税などの手続

労働者が退職または離職した場合は、在職中に加入していた健康保険・厚生年金保険の資格がなくなりますので、次に就職するまでの間、住所を有する市町村で国民健康保険や国民年金への加入の手続きが必要となります。また、住民税等につきましても課税市町村から住民税等の納入通知書が届きますので、忘れないよう納入してください。

なお、健康保険料（税）・住民税は前年分の所得により算定されますが、収入が著しく低下した方や倒産、解雇、雇い止め等により職を失った方は、一定の条件を満たす場合、軽減・減免対象となることがありますので、市町村の担当課にご相談ください。

【社会保険の切替、住民税に関する問合先】

☆甲府市にお住まいの方は、甲府市役所本庁舎（甲府市丸の内1-18-1）の各窓口

- 甲府市福祉部健康保険課（2階） (保険料係) Tel055-237-5368
- 甲府市市民部市民課（2階） (国民年金係) Tel055-237-5385
- 甲府市市民部市民税課（3階） (個人市民税係) Tel055-237-5398

※甲府市以外の方は、各市町村役場の担当窓口へお問い合わせください。

V さまざまなお働き方について

正社員という働き方に加え、「パートタイム労働」「有期契約労働」「派遣労働」「業務委託・請負」といった様々な働き方があります。自分自身がどのような形態で働きたいのか、各々の労働形態を知ることは、働くうえでとても大切です。

1 パートタイム労働者(短時間労働者)

【問合せ：相談窓口 P54】

1週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用されている通常の労働者に比べて短い労働者とのことです。(パートタイム・有期雇用労働法第2条)

法律上は、パートタイマーやアルバイトという区別はなく、条件を満たせば呼び名は違ってもすべてパートタイム労働者となります。

また、パートタイム労働者も労働者であることに変わりないので、各種労働法が適用され、要件を満たせば、年次有給休暇も取得できますし、雇用保険や健康保険、厚生年金保険が適用されます。

○パートタイム労働者の留意点

- ・労働条件等を明記した労働条件（雇入れ）通知書を受取り、事前に労働条件を確認しましょう。
- ・家庭の事情等で所定労働時間以外に働けない場合は、あらかじめ事業主に申し出て、労働条件通知書に明記してもらいましょう。
- ・常時使用されるパートタイム労働者（1年以上引き続き使用され、1週間の労働時間がその事業所の同種の業務に従事する通常の労働者の所定労働時間の3/4以上である労働者）は、健康診断を受けることができます。

○パートタイム労働者の社会保険

一定の要件を満たせば、保険に加入する必要があります

健康保険	<p>全ての法人事業所と、常時5人以上の従業員を使用する事業所（サービス業等を除く。）に働くパートタイム労働者で、1週の所定労働時間及び1月の所定労働日数が常時雇用者の4分の3以上ある場合</p> <p>※特定適用事業所（注1）に勤務する短時間労働者（注2）は、健康保険・厚生年金保険の適用対象です。</p> <p>（注1）同一事業主の適用事業所の被保険者数（短時間労働者を除き、共済組合員を含む。）の合計が、1年で6か月以上、50人を超えることが見込まれる事業。50人以下でも労使で合意した事業所。</p>
厚生年金保険	<p>（注2）勤務時間・勤務日数が、常時雇用者の4分の3未満で、以下の①～⑤のすべてに該当する方</p> <ul style="list-style-type: none">① 週の所定労働時間が20時間以上あること。② 雇用期間が2カ月を超えて見込まれること。③ 賃金の月額が8.8万円以上であること。④ 学生でないこと。⑤ 常時51人以上の企業（特定適用事業所）に勤めていること。
雇用保険	週の所定労働時間が20時間以上、かつ、31日以上の雇用見込がある場合

2 有期契約労働者

有期契約労働者は、正社員と違って、労働契約にあらかじめ契約期間が定められている働き方です。

- ・労働者と使用者の合意により契約期間を定めたものであり、契約期間の満了によって労働契約は自動的に終了します。
- ・1回あたりの契約期間の上限は、一定の場合（専門的知識を要する場合等は5年）を除いて最長3年です。 （労働基準法第14条）
- ・使用者は、やむを得ない事由がある場合でなければ、契約期間が満了するまでの間において、労働者を解雇することはできません。 （労働契約法第17条）
- ・同一使用者との間で、有期労働契約が通算5年を超えて繰り返し更新された場合は、労働者の申し込みにより、無期労働契約に転換する。 （労働契約法第18条）

※有期契約労働者、短時間労働者、派遣労働者といったいわゆる非正規雇用の労働者の企業内のキャリアアップ等を促進するため、正社員化、人材育成、処遇改善の取組を実施した事業主に対して助成する「キャリアアップ助成制度」（厚生労働省）がありますので、ご活用ください。

パートタイム・有期雇用労働法について

正社員とパートタイム労働者、有期雇用労働者との間の不合理な待遇差を禁止するなど、パート・アルバイト・契約社員として働く方の環境をよくするための法律です。

（1）均衡待遇（不合理な待遇の禁止）（同法第8条）

事業主は、通常の労働者とパートタイム・有期雇用労働者との間で、不合理な待遇差を設けてはならないとされています。不合理な待遇差かどうかの判断は、個々の待遇ごとに、その待遇の性質・目的に照らし適切と認められる事情（職務の内容、職務の内容・配置の変更の範囲、その他的事情）を考慮して判断されます。

（2）均等待遇（差別的取扱いの禁止）（同法第9条）

事業主は、通常の労働者と同視すべきパートタイム・有期雇用労働者については、すべての待遇について差別的取扱いをしてはならないとされています。

（3）賃金、教育訓練、福利厚生施設（同法第10条～12条）

通常の労働者と同視すべきパートタイム・有期雇用労働者以外のすべてのパートタイム・有期雇用労働者については、以下の定めがあります。

- ・事業主は、通常の労働者との均衡を考慮しつつ職務の内容、成果、意欲、能力または経験等を勘案してその賃金等を決定するよう努めること。
- ・事業主は、パートタイム・有期雇用労働者と通常の労働者の職務が同じ場合、教育訓練については、パートタイム・有期雇用労働者が既に必要な能力を身につけている場合を除き、通常の労働者と同様に実施しなければならないこと。
- ・事業主は、福利厚生施設のうち、給食施設、休憩室、更衣室については、通常の労働者と同様に利用の機会を与えなければならないこと。

（4）通常の労働者への転換（同法第13条）

事業主は、通常の労働者への転換を促進するための措置として、①～④のいずれかの措置を講ずることが義務付けられています。

- ① 通常の労働者を募集する場合、その募集内容を既に雇っているパートタイム・有期雇用労働者

V さまざまな働き方について

に周知する

② 通常の労働者のポストを社内公募する場合、既に雇っているパートタイム・有期雇用労働者にも応募する機会を与える

③ パートタイム・有期雇用労働者が通常の労働者へ転換するための試験制度を設ける

④ その他通常の労働者への転換を推進するための措置を講ずる

(5) 事業主が講ずる措置の内容等の説明（同法第14条）

事業主は、パートタイム・有期雇用労働者を雇い入れたときは、速やかに、実施する雇用管理の改善等に関する措置の内容を説明することが義務付けられています。また、事業主は、パートタイム・有期雇用労働者から求めがあったときは、通常の労働者との待遇差の内容や理由、待遇を決定するに当たって考慮した事項を説明することが義務付けられています。

(6) 相談のための体制の整備（同法第16条）

事業主は、雇用管理改善に関するパートタイム・有期雇用労働者からの相談に応じ、適切に対応するために、相談窓口の設置等の体制整備をすることが義務付けられています。

学生アルバイトのトラブル（いわゆるブラックバイト）にご用心！

【問合せ：相談窓口 P55・56】

◎アルバイトをしていてこんなことはありませんか？

「求人票の労働条件と実際の待遇が違う」「休日が取れない」「給料（時給）が著しく安い」「残業代が支払われない」「無理なシフト変更を余儀なくされた」「休憩時間が無い」「（労働条件的に）学業との両立ができない」等・・・

◎学生アルバイトも「労働契約」です。

労働契約は、雇用主との契約であり、労働基準法等の適用になります。

労働契約を結ぶときは、必ず、雇用主は労働条件を明示する書面等（労働契約書、労働条件通知書等）を交付しなければなりません。書面等は必ず捨てずに持っておきましょう。

また、賃金は、最低の基準（最低賃金）が都道府県ごとに定められています。

例えば、山梨県の場合は1時間当たりの最低賃金額は、1,052円です。（令和7年12月1日から適用）

◎アルバイトをする前に確かめたいポイント

- 1 アルバイトを始める前に、労働条件を確認しましょう
- 2 アルバイト代は、毎月、決められた日に、全額支払いが原則です
- 3 アルバイトでも、残業手当があります
- 4 アルバイトでも、条件を満たせば有給休暇が取れます
- 5 アルバイトでも、仕事中のけがは労災保険が使えます
- 6 アルバイトでも、会社都合の自由な解雇はできません
- 7 困ったときは、相談窓口へ問合せを

3 派遣労働者

【問合せ:相談窓口 P54】

労働者は、派遣事業所（派遣元）と労働契約を結び、派遣元が労働者派遣契約を結んでいる事業所（派遣先）に労働者を派遣し、労働者は、派遣先の指揮命令を受けて働く形態です。

○派遣労働者の特徴

- ・労働者に賃金を支払う事業所（派遣元）と、指揮命令をする事業所（派遣先）が異なります。
- ・雇用主は、派遣事業所（派遣元）になります。よって、社会保険・労働保険に関する適用は、派遣元が責任を負います。労働関係法令については、原則として派遣元事業主が雇用主として責任を負いますが、一部派遣先が責任を負うものがあります。
- ・トラブルの際には、派遣元が責任をもって対処しなければなりませんが、実際に指揮命令をしている派遣先が全く責任を負わないことは妥当ではなく、派遣元と派遣先のそれぞれで選任された派遣元責任者と派遣先責任者には、苦情処理の義務があります。

(労働者派遣法第36条、41条)

- ・派遣で働く場合は、派遣先・業務内容・派遣期間・労働時間等を明らかにした書面（就業条件明示書）を派遣元から交付してもらいましょう。

○派遣労働者の社会保険

一定の要件を満たせば、保険に加入する必要があります	
健康保険	<p>1週の所定労働時間及び1月の所定労働日数が常時雇用者の4分の3以上ある場合</p> <p>※特定適用事業所（注1）に勤務する短時間労働者（注2）は、新たに健康保険・厚生年金保険の適用対象です。</p> <p>（注1）同一事業主の適用事業所の被保険者数（短時間労働者を除き、共済組合員を含む。）の合計が、1年で6か月以上、50人を超えることが見込まれる事業所。50人以下でも労使で合意した事業所。</p>
厚生年金保険	<p>（注2）勤務時間・勤務日数が、常時雇用者の4分の3未満で、以下の①～⑤のすべてに該当する方</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 週の所定労働時間が20時間以上あること。 ② 雇用期間が2カ月を超えて見込まれること。 ③ 賃金の月額が8.8万円以上であること。 ④ 学生でないこと。 ⑤ 常時51人以上の企業（特定適用事業所）に勤めていること。
雇用保険	週の所定労働時間が20時間以上、かつ、31日以上の雇用見込がある場合

4 業務委託・請負契約を結んで働く人

業務委託や請負といった形態で働く場合は、注文主から受けた仕事の完成に対して報酬が支払われるもので、注文主の指揮命令を受けない「事業主」として扱われ、基本的には「労働者」としての保護を受けることはできません。

ただし、「業務委託」や「請負」といった契約をしていても、その働き方の実態から注文主の「労働者」であると判断されれば、労働法規の保護を受けることができます。例えば、仕事をする場所・時間を注文主から指定されていたり、仕事の仕方を細かく指示されていたりする場合等は、「労働者」と判断される可能性が高まります。

この「労働者」であるかどうかということは、実はとても難しい問題です。自分が労働者として労働法の保護を受けることができるかどうか困った際には、労働基準監督署に相談をしてみましょう。

なお、厚生労働省では、フリーランス・個人事業主の方が、契約上・仕事上のトラブルについて弁護士に無料で相談できる相談窓口「フリーランス・トラブル 110 番」を令和2年11月から設置しています。

また、フリーランスが安心して働ける環境を整備するために、令和6年11月1日から「フリーランス・事業者間取引適正化等法」が施行されています。



【フリーランス・トラブル 110 番】

関係省庁のHPでは詳しい資料、最新の情報を提供しています。ぜひご利用ください。



内閣官房



公正取引委員会



中小企業庁



厚生労働省

5 労働者協同組合法について

令和2年12月に公布された労働者協同組合法（令和2年法律第78号）は、多様な就労機会の創出、地域の多様な需要に応じた事業を行うことで、持続可能で活力ある地域社会の実現を目的としています。協同労働とは、働く人が出資をして組合員となり、それぞれの意見を反映させながら主体的に運営し、地域の多様な需要に応じながら、持続可能な地域社会づくりに向けて事業を行う働き方です。

※労働組合協同組合法は、一部を除き、公布後2年以内の政令で定める日から施行することとされています。

6 テレワークの活用

テレワークとはインターネット等の ICT を活用し、自宅等で仕事をする、時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方です。感染症の感染拡大防止の観点からも有効な働き方です。

テレワークにおける適切な労務管理のためのガイドライン（抜粋）

(1) 労働基準関係法令が適用されます。

○労働基準法 ○最低賃金法 ○労働安全衛生法 ○労働者災害補償保険法等

(2) 労働基準法が適用されます。

- ① 労働条件の明示
- ② 労働時間制度の適用
- ③ 休憩時間の取り扱い
- ④ 時間外・休日労働の労働時間管理

(3) 長時間労働対策について（長時間労働による健康障害防止）

- ① メール送付の抑制
- ② システムへのアクセス制限
- ③ テレワークを行う際の時間外・休日・深夜労働の原則禁止
- ④ 長時間労働等を行う労働者への注意喚起

(4) 労働安全衛生法が適用されます。

(5) 労災保険法が適用※されます。

※但し事業主の支配下にあること、私的行為に当たらないこと等、一定の要件が必要です。



7 「スポットワーク」を利用して働くスポットワーカーの皆さまへ ～ご存知ですか？「スポットワーク」の注意点～

空いた時間に働ける「スポットワーク（スキマバイト・スポットバイト・短期バイト・単発バイト等）」。時間を有効に使えることなどから便利であり、最近利用者が急増しています。

就労先とのトラブルにあわないよう、スポットワーカーの皆さまが「スポットワーク」で勤務するに当たり知っておくべき注意点をまとめましたので、是非ご確認ください。

労働契約を結ぶときの注意点

スポットワークについては、労使間の別途特段の合意がなければ、お仕事に応募した時点で労使双方の合意があったものとして労働契約が成立するものと一般的には考えられます。

仕事に応募する前に、労働条件通知書を確認して、

- ・雇用主が誰か
- ・労働条件の具体的な内容（就業場所、業務の内容、就業時間、雇用形態など）
- ・解約（キャンセル）に関する規定の有無
- ・その内容や期限
- ・契約成立時期

を確認しましょう。

労働契約が成立した後は、労働条件通知書がきちんと交付されているか、確実に確認しましょう。もし労働条件通知書の内容が応募時の内容と異なる場合には、スポットワーク仲介事業者または雇用主に問い合わせましょう。

仕事の中止または早上がりを命じられたときの注意点

労働契約成立後に、雇用主の都合で仕事がなくなったり、早上がりを命じられた場合は、雇用主は、所定支払日までに休業手当を支払うことが必要です。

雇用主がその日に約束した賃金を全額支払う場合には、休業手当に代えて支払われたことになります。

賃金・労働時間に関する注意点

雇用主の指示により、就業を命じられた業務に必要な準備行為（指定された制服への着替え等）や業務終了後の業務に関連した後始末（掃除等）を就業先内において行った時間、待機を命じられた時間も、労働時間に該当することから、賃金が発生します。

実際の労働時間が予定と異なっていた場合は、雇用主に実際の労働時間を報告し、修正の承認を求めましょう。実際に働いた時間に対する賃金や、事前に約束した賃金が支払われているかを確認してください。

賃金について、労働条件通知書で示されていた額が一方的に減額されたり「別途支払う」とされていた交通費などが支払われない場合は、労働基準法違反です。雇用主に対して支払いを求めましょう。

通勤途中や仕事中にケガをしたときの注意点

通勤途中や仕事中にケガをした場合は、労災保険給付を請求することができます。
まず雇用主に連絡し、手続きを進めてください。

雇用主には、スポットワーカーに対する安全衛生教育の実施等の各種措置が義務付けられています。
仕事に就く前に安全衛生教育をしっかり受けましょう。

○×クイズ

～アルバイトを始める前に知っておきたい！

労働法クイズ～

ア ル バ イ ト 代 関 係	① 街でアルバイトの募集広告を見ました。このアルバイトの時給は1,100円で研修中は1,000円みたいですね。 このお店がある県の最低賃金は1,052円ですが、研修中はいろいろ教えてもらうんだから時給が低くてしょうがないと思っています。 ○か×か。
	② 店長に言われて開店の準備や片付けをしていますが、お店と合意した仕事はあくまで「接客」なので、接客以外の業務については、時間も短いし、アルバイト代は払わないことになっていると言われました。でも実際にお店のために働いたんだからアルバイト代はもらえますよね。 ○か×か。
	③ 仕事中に誤ってお皿を割ってしまいました。月末のアルバイト代から勝手に弁償金を差し引かれてましたが、お皿を割ってしまった自分が悪いので、しょうがないですよね。 ○か×か。
	④ アルバイトで毎回タイムカードに記録された時間のうち、15分未満が切り捨てられてアルバイト代の計算がされています。短時間でもちゃんと働いていることに違いはないのだから、アルバイト代の計算に入るべきですよね。 ○か×か。
	⑤ アルバイト先には「遅刻をしたら罰金3,000円」というルールがあります。遅刻をした分のアルバイト代が支払われないのは納得していますが、やっぱり遅刻した自分が悪いんで「罰金」も払わなければいけないんですね。 ○か×か。
時 間 関 係	⑥ 週末に1日に7時間働いています。いつも忙しくて、休憩が15分くらいしか取れていません。お店のみんなも忙しくて休憩を取っていないので、私も休憩が取れなくとも仕方ないですよね。 ○か×か。
	⑦ 「アルバイトの人が足りないんだから、店が困らないように協力するのは当たり前だ。」とお店からされました。その日はもともとシフトに入らないことになっている曜日なんですが、テストがあって絶対に休めないので無理矢理シフトを入れられて困っています。お店は大変だろうけど、私もテストを受けないと進級できなくなっちゃうかもしれないし、テストを休んでまでアルバイトに行くのはおかしいですよね。 ○か×か。
退職・解雇關係	⑧ 余りに忙しくて学校の勉強をする時間がとれなくなってきたので、「来月いっぱいまでアルバイトを辞めたいです。」とお店に伝えたら、店長から「突然辞めると言い出るのは迷惑だ。代わりの人を見付けるまで辞めさせない。」と言われてしまいました。確かに代わりがないとお店は困るかもしれないのに、自分で代わりを見つけてから辞めるしかないですよね。 ○か×か。
その他	⑨ 仕事中にけがをしてしまいました。会社からは「キミの不注意が原因なので、治療費は自分で払ってもらいます。健康保険に入ってるでしょ」と言われました。確かに健康保険があるから治療費はそんなに高くないし、自分のミスだから自分で治療費払うしかないですよね。 ○か×か。

【厚生労働省発行チラシ「仕事（アルバイト）のトラブルこんな事で困っていませんか？」より引用】

【クイズの答え】

① × ② ○ ③ × ④ ○ ⑤ × ⑥ × ⑦ ○ ⑧ × ⑨ ×

VI 労働組合について

1 労働組合

【問合せ：相談窓口 P55】

労働組合は、賃金、労働時間、職場環境等の労働条件を維持改善する等、労働者の経済的地位の向上を図ることを主な目的とする団体です。
(労働組合法第2条)

●労働三権

労働組合に関して、憲法で権利が保障されています。	
団結権	労働組合を結成する権利
団体交渉権	賃金、労働時間、職場環境等について話し合いを求める権利
争議権	話し合いの状況に応じてストライキ等を行う権利

●不当労働行為の禁止

(労働組合法第7条)

使用者は、次のような行為については、不当労働行為として禁止されています。

- ・労働者が、
 - ①組合員であること
 - ②労働組合に加入しようとしたこと
 - ③労働組合を結成しようとしたこと
 - ④労働組合の正当な行為をしたことを理由に解雇したり、不利益な取扱いをすること。
- ・労働組合に加入しないことや脱退することを雇用条件とすること。
- ・労働者の代表者と団体交渉することを正当な理由がなく拒むこと。
- ・労働組合の結成や運営に対して、これを支配したり、介入したりすること。

●労働争議の調整

労働争議とは、労働組合と使用者との間で、労働条件等をめぐり紛争になっている状態を言います。

労働組合と使用者の間で紛争が起きたときは、当事者である労働組合と使用者が自主的に解決するよう努めなければなりません。
(労働関係調整法第2条)

しかし、当事者間だけでは、なかなか解決が困難な場合もあるので、第三者である行政機関の労働委員会が紛争の調整にあたる制度があります。

あっせん、調停、仲裁の3つの方法があります。

VII 甲府市の労働行政について

1 労働者福祉事業

(1) 労働相談の実施（無料）

勤労者が抱えている労働問題全般にわたる相談、助言、指導を行い、勤労者の生活向上に資するため労働相談業務を行っています。

また、県社会保険労務士会と連携して、休日の社会保険労務士相談会も開催しています。

※巻末（P61）に労働相談日のカレンダーアリ。

●労働相談室（面談・電話相談可）

開設日時 毎週火・木曜日 午後5時～午後8時（年末年始除く）
(祝祭日は、午後1時～午後4時)

●社会保険労務士相談（面談・電話相談可）

開設日時 毎月第2・4日曜日 午前10時～午後4時（3時受付終了）
(年末年始除く)

※どちらも、開設場所は、甲府市役所本庁舎4階 相談室4aです。（予約不要）
電話番号は、055-298-4475です。ご利用ください。

(2) 労働セミナーの開催

働く人たちが、いきいきと安心、安定した生活を送ることができる環境づくりのために、労働・雇用関係におけるタイムリーなテーマに関する講演会形式のセミナーを実施しています。

(3) 甲府市労働行政推進懇話会の設置

本市の労働者等に関する福祉の増進及び生活の向上に関する検討を行います。労働団体の代表・労働者・学識経験者等の委員で構成され、任期は3年。年間2回程度の懇話会を開催します。

(4) 中巨摩地区広域事務組合 勤労青年センターの利用促進

勤労者が、文化、学習活動、スポーツ、レクリエーション活動を通じて、余暇や休日を楽しく有意義に過ごせるよう、中巨摩地区広域事務組合勤労青年センター（体育館、グラウンド、テニスコート、フットサルコート、研修室）の使用について、中巨摩地区広域事務組合と協定を結び、甲府市民の利用に供しています。

・所在地：中央市一町畠 1189 TEL055-273-6479

(5) 甲府市勤労者球技大会の実施

勤労者の交流と親睦を図ることにより、相互連帯意識の高揚と勤労者の健康増進のため各種球技大会を開催しています。

- ① 勤労者フットサル大会
- ② 勤労者卓球大会・バドミントン大会



VII 甲府市の労働行政について

(6) 労働者福祉団体の各種事業への助成

スポーツ・文化・教養・健康増進等を通じて、勤労者相互の連帯を深めるため、山梨県労働者福祉協会、甲府市勤労者福祉協議会等に助成を行っています。

(7) はたらく者のサポートガイドの発行（本誌）

はたらくための基本的な事項が解説されている本冊子を作成し、甲府市内の大学、高等学校、専門学校等の就職担当をはじめ、市の施設及び国、県の施設等に毎年約1,600部を配布しています。

2 雇用促進対策事業

(1) 県央ネットやまなし合同企業説明会・メタバース合同企業説明会の開催

卒業見込の学生及び一般求職者、外国人留学生及び就職期を迎える前の高校、専門学校、大学等の生徒、学生等を対象に、自治体連携による対面の合同企業説明会及びメタバース空間を使用した合同企業説明会を開催し、企業と求職者のマッチングの機会や地元企業の魅力を知る機会を設けています。

(2) 甲府市産業支援サイト

就職活動をしている学生や求職者の皆様に市内企業で働くことへの関心をもっていただけるよう、市内で働く人たちの魅力を取り材し発信する「甲府市就職応援サイト」を甲府市の産業全般について発信するサイトである「甲府市産業支援サイト」内に掲載しています。

甲府市産業支援サイト

<https://www.kofu-sangyo.jp/employment-support>



(3) ワークプラザ甲府（ハローワークとの一体的就労支援事業）

甲府市、山梨労働局及び甲府公共職業安定所が連携し、市が行う福祉関連の生活相談と国が行う無料職業相談を市役所内で一体的に行う就労支援事業を、平成26年11月から実施しています。

一般の求職者の方も、ご利用いただけます。求人検索システムを利用した、求人情報の検索と閲覧もできます。お気軽にご利用ください。

なお、就労支援を主な目的としているため、求人申込や雇用保険に関する業務は取り扱っておりません。



施設名称 「ワークプラザ甲府」

場 所 市役所本庁舎2階東側

開設時間 月～金曜日 午前9時～午後5時（年末年始を除く）

予約電話 055-237-1161（内線 4930）

<https://www.city.kofu.yamanashi.jp/rose/h261126-workplazakofu1.html>



(4) 雇用促進事業

山梨労働局及び甲府公共職業安定所と連携し、甲府公共職業安定所発行の求人情報及び求人ニュースを、甲府市役所本庁舎のワークプラザ甲府（2階）、生活福祉課（3階）の窓口等に置き、求人情報の提供を行っています。

(5) 甲府市シルバー人材センター

高年齢者が就業を通して社会参加することにより、自らの生きがいの充実や追加的な収入を得るために実施する、同センターの事業に対する運営管理を支援しています。

- ・センター会員が請負う主な業務
除草・剪定、襖・障子・網戸の張替え、家事手伝い、筆耕等の各種業務

【甲府市シルバー人材センターへの問合先】

- ・公益社団法人 甲府市シルバー人材センター
甲府市相生 2-17-1 Tel055-222-9488
<https://yamanashi-kofu-sjc.com/>



(6) インターンシップ受入助成金事業

市内の事業者等によるインターンシップの受け入れを促進し、産業人材の育成及び学生等の市内就職を図るため、インターンシップ受入助成金の交付を行っています。

3 中小企業等の福利厚生支援事業

市内の中小企業や小規模事業所の福利厚生事業、余暇レクリエーション事業、慶弔・共済等の給付事業を行っている「一般財団法人 甲府市勤労者福祉サービスセンター」を支援しています。（次ページを参照）

【一般財団法人 甲府市勤労者福祉サービスセンターへの問合先】

- ・一般財団法人甲府市勤労者福祉サービスセンター
甲府市朝氣 2-2-22 Tel055-232-8753
<https://kofu.zenpuku.or.jp/>



VIII その他

1 中小企業等の福利厚生事業

甲府市内の中小企業や小規模事業所の事業主や従業員を対象に、福利厚生事業、余暇レクリエーション事業や慶弔・共済等の給付事業を行っています。

一般財団法人 甲府市労働者福祉サービスセンター

甲府市朝氣 2-2-22 Tel055-232-8753 
<https://kofu.zenpuku.or.jp/>

加入対象者 甲府市内の中小企業等に勤務する方及びその事業主
甲府市内に居住し、市外の中小企業等に勤務する方

会 費 入会金：1人 100円 会費：月額 1人 500円

主なサービス 慶弔共済金給付、人間ドック等受診補助、レクリエーション事業、
各種チケット等斡旋等

※事業所単位または個人で入会（中小企業とは、従業員数が概ね300人以下の事業所、小規模事業所とは、従業員数が概ね20人以下の事業所）

2 中小企業退職金共済制度(中退共)

「中小企業退職金共済法」に基づく、中小企業に向けた国の退職金制度です。

独立行政法人 勤労者退職金共済機構 中小企業退職金共済事業本部

東京都豊島区東池袋 1-24-1 Tel03-6907-1234

<https://chutaikyo.taisyokukin.go.jp/>

・掛金の一部を国が助成、社外積立型だから手間いらずです。



3 勤労者福祉施設

勤労者の福祉の増進、文化の向上、より豊かな生活の形成を促進するための施設です。

甲府市労働者福祉センター 甲府市朝氣 2-2-22 Tel055-232-8751

会議室、料理実習室、大ホール、テニスコート等を完備

<https://kofu.zenpuku.or.jp/>



甲府市市民いこいの里 甲府市黒平町 30 Tel055-287-2235

予約専用ダイヤル 施設開設期間中（4月～11月）のみ Tel080-6611-1510

和・洋室、バーベキュー棟、キャンプ場、テニスコートを完備 ※宿泊定員 29名

<https://www.city.kofu.yamanashi.jp/rose/shisetsu/recreation/ikoi.html>



中巨摩地区広域事務組合労働青年センター 中央市一町畠 1189 Tel055-273-6479

https://www.nakakomakouiki.or.jp/working_youth_center/

会議室、体育館、多目的広場、フットサル場、テニスコート等を完備



IX 問合せ・相談窓口一覧

No.	求人・求職の情報提供、相談機関
1	<p>やまなし・しごと・プラザ（山梨県とハローワークによる一体的実施事業） 甲府市飯田 1-1-20 JA会館 5F </p> <p>○甲府新卒応援ハローワーク（ヤングハローワーク） (職業紹介等：新規学校卒業予定者及び卒業後3年以内の既卒者等) Tel055-221-8609 月～金曜日 9時30分～18時 </p> <p>○外国人雇用サービスコーナー（ポルトガル語・スペイン語の通訳配置） Tel055-221-8609 月曜日 9時30分～12時30分、 木曜日 10時～13時、14時～16時</p> <p>○留学生コーナー（行政書士による外国人雇用管理アドバイザーを配置） Tel055-221-8609 水曜日 13時～17時</p> <p>○ジョブカフェやまなし（概ね15歳から39歳までの若年者を対象） 就労相談（キャリアカウンセリング、応募書類、面接練習等）Tel055-233-4510 月～金曜日 9時30分～18時 土曜日 9時～17時30分  https://job.pref.yamanashi.jp </p> <p>○山梨県求職者総合支援センター (概ね40歳以上の中高年齢者を対象。職業紹介・職業相談、生活・就労相談) (1) ハローワーク（職業紹介等） Tel055-226-8609 月～金曜日 9時30分～18時 (2) 生活・就労相談 Tel055-233-4510 月～金曜日 9時30分～18時 土曜日 9時～17時30分  https://job.pref.yamanashi.jp/ykssc/index.html</p> <p>○山梨県子育て就労支援センター (子育て中の方向け。職業紹介・職業相談、子育て支援制度等の情報提供等) (1) ハローワーク（職業紹介等） Tel055-226-1188 月～金曜日 9時30分～18時 (2) 就労相談、子育て支援制度等の情報提供等 Tel055-233-4510 月～金曜日 9時30分～18時 土曜日 9時～17時30分  https://job.pref.yamanashi.jp/kosodate/index.html</p>

IX 問合せ・相談窓口一覧

2	<p>ハローワーク甲府（甲府公共職業安定所） (1) 平日（月～金）8時30分～17時15分（通常業務） (2) 平日（月・水）17時15分～19時（延長開庁） (3) 第2・第4 土曜日 10時～17時（土曜開庁） ※(2)及び(3)については、在職者優先の職業紹介・職業相談のみで、求人受付、訓練相談業務、雇用保険業務、マザーズコーナーの業務は行っておりません。 (4) 外国人の方への職業相談窓口 火曜日 13時30分～17時（ポルトガル語・スペイン語） 水曜日 13時30分～16時30分（ポルトガル語のみ） 甲府市住吉1-17-5 Tel055-232-6060【総合案内1#】</p>	
3	<p>ワークプラザ甲府（甲府市とハローワークによる一体的就労支援事業） 月～金曜日（祝日・年末年始を除く）9時～17時 甲府市役所本庁舎2階東側 Tel055-237-1161（内4930）受付専用</p>	
4	<p>やまなし若者サポートステーション（働くことが不安なお仕事をされていない方や就学中でない方（15歳～49歳）とそのご家族が対象） https://ycca.jp/yss/</p>	
5	<p>山梨県青少年センター 若者相談室 水～金曜日 10時～15時 甲府市和戸町1303 Tel055-230-2239</p>	
No.	インターネットでの求人検索	
6	<p>ハローワークインターネットサービス https://www.hellowork.mhlw.go.jp/index.html（提供元：厚生労働省）</p>	
No.	県外設置の求人・求職の情報提供、相談・就職支援機関	
7	<p>山梨県働く人・働き方支援課 東京駐在 東京都千代田区平河町2-6-3 都道府県会館13階 東京事務所内 Tel03-5212-9043</p>	
8	<p>やまなし暮らし支援センター 東京都千代田区有楽町2-10-1 東京交通会館8階 ふるさと回帰支援センター内 Tel080-1600-5730</p>	
9	<p>東京新卒応援ハローワーク 東京都新宿区西新宿2-7-1 新宿第一生命ビルディング21階 Tel03-5339-8609</p>	
10	<p>八王子新卒応援ハローワーク 東京都八王子市旭町10-2 八王子TCビル6階 Tel042-631-9505</p>	

No.	就職を目指す方の職業能力を開発する施設
11	甲府市立甲府商科専門学校 甲府市西下条町 1020 Tel055-243-0511
12	独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構山梨支部 山梨職業能力開発促進センター（ポリテクセンター） 甲府市中小河原町 403-1 Tel055-242-3066
13	山梨県立就業支援センター 甲府市塩部 4-5-28 Tel055-251-3210
14	山梨県立産業技術短期大学校（塩山キャンパス） 甲州市塩山上於曾 1308 Tel0553-32-5200
15	山梨県立産業技術短期大学校（都留キャンパス） 都留市上谷 5-7-35 Tel0554-43-8911
16	山梨県立峠南高等技術専門校 南巨摩郡富士川町青柳町 3492 Tel0556-22-3171
No.	障がい者の就業を支援する施設
17	独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構山梨支部 山梨障害者職業センター 甲府市湯田 2-17-14 Tel055-232-7069
18	山梨県立就業支援センター 甲府市塩部 4-5-28 Tel055-251-3210
19	障がい者就業・生活支援センター 陽だまり 韮崎市若宮 1-2-50 ニコリ3F Tel0551-45-9901
20	すみよし障がい者就業・生活支援センター 甲府市住吉 4-7-20 Tel055-221-2133
21	障がい者就業・生活支援センター コピット 山梨市下井尻951-1 マロニエテラス1-201 Tel0553-39-8181
22	障がい者就業・生活支援センター ありす 富士吉田市新西原 3-4-20 Tel0555-30-0505

IX 問合せ・相談窓口一覧

No.	高齢者の就業を支援する施設
23	公益社団法人 甲府市シルバー人材センター 甲府市相生 2-17-1 甲府市役所南庁舎1号館1階 Tel055-222-9488 入会説明会：毎月第3木曜日 16時～ 同住所3階会議室にて実施
24	公益社団法人 山梨県シルバー人材センター連合会 甲府市蓬沢 1-15-35 山梨県自治会館1階 Tel055-228-8383
No.	労働契約・就業規則・労働協約・安全衛生・労災保険・健康診断などについて
25	甲府労働基準監督署総合労働相談コーナー 甲府市下飯田 2-5-51 Tel055-224-5620
26	独立行政法人 労働者健康安全機構 山梨産業保健総合支援センター 甲府市徳行 5-13-5 山梨県医師会館2階 Tel055-220-7020
27	中北地域産業保健センター 甲府市徳行 5-13-5 山梨県医師会館2階 Tel055-220-7020
No.	母性保護・母性健康管理、性別による差別の禁止について
28	山梨労働局雇用環境・均等室 【母性健康管理措置・不利益取扱い・性別による差別の禁止関係】 甲府市丸の内 1-1-11 Tel055-225-2851
29	甲府労働基準監督署総合労働相談コーナー【母性保護関係】 甲府市下飯田 2-5-51 Tel055-224-5620
No.	仕事と育児・介護・治療の両立支援について
30	山梨労働局雇用環境・均等室【育児・介護休業制度、不妊治療両立支援、助成金関係】 甲府市丸の内 1-1-11 Tel055-225-2851
31	山梨労働局労働基準部健康安全課【治療と仕事の両立支援】 甲府市丸の内 1-1-11 Tel055-225-2855
32	甲府年金事務所【社会保険関係】 甲府市塩部 1-3-12 Tel055-252-1431 音声案内「3」
33	ハローワーク甲府（甲府公共職業安定所）【育児休業給付金関係】 甲府市住吉 1-17-5 Tel055-232-6060 【雇用保険適用課 21#】
34	ハローワーク甲府（甲府公共職業安定所）【長期療養中の方への就職支援関係】 甲府市住吉 1-17-5 Tel055-232-6060 【職業相談第1部門 41#】

35	甲府市ファミリーサポートセンター 甲府市上石田 3-6-31 中央部幼児教育センター内 Tel055-223-2253
36	独立行政法人 労働者健康安全機構 山梨産業保健総合支援センター 甲府市徳行 5-13-5 山梨県医師会館 2 階 Tel055-220-7020
37	市立甲府病院 総合相談センター 総合相談室 両立支援 毎月第3火曜日 10時～12時 就職支援 毎月第2、第4火曜日 10時～15時 甲府市増坪町 366 Tel055-244-1111 内線 1202
No.	職場におけるハラスメント対策について
38	山梨労働局雇用環境・均等室 【セクシュアルハラスメント、妊娠・出産等、育児・介護休業等に関するハラスメント】 甲府市丸の内 1-1-11 Tel055-225-2851
39	山梨労働局総合労働相談コーナー 【パワーハラスメント】 甲府市丸の内 1-1-11 Tel055-225-2851
40	甲府労働基準監督署総合労働相談コーナー 【パワーハラスメント】 甲府市下飯田 2-5-51 Tel055-224-5620
No.	職場環境・健康診断について
41	甲府労働基準監督署安全衛生課 甲府市下飯田 2-5-51 Tel055-224-5617
No.	健康保険・厚生年金保険の適用、年金について
42	甲府年金事務所 甲府市塩部 1-3-12 Tel055-252-1431 年金の給付について 音声案内「1」 健康保険・厚生年金保険の適用について 音声案内「3」
No.	健康保険の給付について
43	※1 全国健康保険協会山梨支部にご加入の方 ----- 全国健康保険協会山梨支部 甲府市丸の内 3-32-12 甲府ニッセイスカイビル 4 階 Tel055-220-7750
44	※2 上記以外にご加入の方は、ご加入の保険の保険者（各健康保険組合等）へお問い合わせください。

IX 問合せ・相談窓口一覧

No.	雇用保険について
45	ハローワーク甲府（甲府公共職業安定所） 甲府市住吉 1-17-5 Tel055-232-6060 【雇用保険の給付について 11#】 甲府市住吉 1-17-5 Tel055-232-6060 【雇用保険の適用について 21#】
No.	労災保険について
46	甲府労働基準監督署労災課 甲府市下飯田 2-5-51 Tel055-224-5619
No.	パートタイマーに関する相談
47	甲府労働基準監督署総合労働相談コーナー ¹ 甲府市下飯田 2-5-51 Tel055-224-5620
48	山梨労働局雇用環境・均等室【待遇関係】 甲府市丸の内 1-1-11 Tel055-225-2851
49	甲府年金事務所【健康保険・厚生年金保険関係】 甲府市塩部 1-3-12 Tel055-252-1431 音声案内「3」
50	ハローワーク甲府（甲府公共職業安定所）【雇用保険関係】 甲府市住吉 1-17-5 Tel055-232-6060 【雇用保険適用課 21#】
No.	派遣労働者の労働条件に関する相談
51	甲府労働基準監督署総合労働相談コーナー ¹ 甲府市下飯田 2-5-51 Tel055-224-5620
52	甲府年金事務所【健康保険・厚生年金保険関係】 甲府市塩部 1-3-12 Tel055-252-1431 音声案内「3」
53	ハローワーク甲府（甲府公共職業安定所）【雇用保険関係】 甲府市住吉 1-17-5 Tel055-232-6060 【雇用保険適用課 21#】 山梨労働局職業安定部需給調整事業室【派遣法関係】 甲府市丸の内 1-1-11 Tel055-225-2862
No.	離職等に関する相談
54	甲府労働基準監督署総合労働相談コーナー ¹ 甲府市下飯田 2-5-51 Tel055-224-5620
55	ハローワーク甲府（甲府公共職業安定所） 甲府市住吉 1-17-5 Tel055-232-6060 【総合案内 1#】

56	山梨労働局総合労働相談コーナー 甲府市丸の内 1-1-11 Tel055-225-2851
No.	社会保険の切替、住民税に関する相談
57	甲府市福祉保健部 健康保険課保険料係（本庁舎 2 階） 甲府市丸の内 1-18-1 Tel055-237-5368
58	甲府市市民部 市民課国民年金係（本庁舎 2 階） 甲府市丸の内 1-18-1 Tel055-237-5385
59	甲府市企画財務部 市民税課個人市民税係（本庁舎 3 階） 甲府市丸の内 1-18-1 Tel055-237-5398
No.	労働組合に関する情報提供、相談機関
60	山梨県総合県民支援局働く人・働き方支援課 甲府市丸の内 1-6-1 Tel055-223-1561
61	山梨県労働委員会事務局 甲府市丸の内 1-6-1 山梨県庁北別館 3 階 Tel055-223-1827
62	日本労働組合総連合会山梨県連合会（連合山梨） 甲府市相生 2-7-17 労農福祉センター内 Tel055-228-0050
63	山梨県労働組合総連合（山梨県労） 甲府市徳行 4-3-17 Tel055-287-6116
No.	中小企業の福利厚生について
64	一般財団法人 甲府市勤労者福祉サービスセンター 甲府市朝氣 2-2-22 甲府市勤労者福祉センター内 Tel055-232-8753
No.	労働相談、賃金、労災、雇用保険などの相談
65	甲府市労働相談室 毎週火曜日・木曜日 17 時～20 時（相談日が祝日の場合は、13 時～16 時） 場所：甲府市役所本庁舎 4 階 相談室 4a Tel055-298-4475【面談・電話相談とも可】 問合先 Tel055-237-5736（甲府市雇用創生課）
66	甲府市社会保険労務士無料相談 毎月第 2・4 曜日 10 時～16 時 場所：甲府市役所本庁舎 4 階 相談室 4a Tel055-298-4475【面談・電話相談とも可】 問合先 Tel055-237-5736（甲府市雇用創生課）

IX 問合せ・相談窓口一覧

67	山梨労働局総合労働相談コーナー 甲府市丸の内 1-1-11 Tel055-225-2851
68	甲府労働基準監督署総合労働相談コーナー 甲府市下飯田 2-5-51 Tel055-224-5620
69	山梨県労働委員会 月～金曜日（年末年始祝日は除く）8時30分～17時【電話・面接相談】 甲府市丸の内 1-6-1 山梨県庁北別館3階 Tel055-223-1827
70	山梨県中小企業労働相談所 月～金曜日（年末年始祝日は除く）8時30分～17時【電話・面接相談】 (1) 甲府市飯田 1-1-20 JA会館5階 県民生活センター内 Tel055-223-1471 (2) 都留市田原 2-13-43 南都留合同庁舎1階 県民生活センター地方相談室内 Tel0554-45-5038
No.	外国人のための相談窓口
71	やまなし外国人相談支援センター（外国人住民向け相談窓口、外国人の雇用や就労に関する企業向け相談窓口） 火曜日～土曜日（祝休日、年末年始を除く） 9時～17時（当日の相談受付は16時半まで） 対応可能言語 英語、中国語、ベトナム語、ポルトガル語を含む16言語 甲府市朝氣 1-2-2 山梨県立国際交流・多文化共生センター内 Tel055-222-3390（相談無料）
No.	女性総合相談窓口（セクシュアル・ハラスメント、DV、家庭・家族の悩みなど）
72	甲府市女性総合相談室 月～金曜日（年末年始祝日は除く）9時～12時、13時～16時（金曜日は19時まで）※面接相談は要予約 甲府市丸の内 1-18-1 甲府市役所本庁舎4階 Tel055-223-1255
73	山梨県女性相談支援センター 月～金曜日（年末年始祝日は除く）【電話相談：9時～20時、面接相談（要予約）：9時～17時】 甲府市北新 1-2-12 福祉プラザ2階 Tel055-254-8635

74	<p>山梨県立男女共同参画推進センター（ぴゅあ総合） 原則第2・4月曜日を除く毎日（年末年始を除く） 【電話相談：9時～17時、面接相談：9時～16時】 甲府市朝氣 1-2-2 Tel055-237-7830</p>
No.	その他の無料法律相談
75	<p>甲府市くらしの法律無料相談（弁護士相談）（要予約・年度内に1人1回に限る） 第1、第3水曜日、第2、第4月曜日、第2又は第3日曜日 13時30分～16時30分 甲府市丸の内 1-18-1 甲府市役所 4階 協働推進課 Tel055-237-5298</p>
76	<p>山梨県県民生活センター 弁護士による無料相談（要予約） 原則毎週水曜日（祝日・年末年始を除く）13時～15時 甲府市飯田 1-1-20 JA会館 5階 Tel055-223-1471</p>
77	<p>外国人ための無料法律相談 弁護士が対応（要予約） 毎月第1水曜日 18時30分～21時 每月第3土曜日 13時～16時 対応可能言語 予約に応じて各言語対応可 やまなし外国人相談支援センター 甲府市朝氣 1-2-2 山梨県立国際交流・多文化共生センター内 Tel055-222-3390（相談無料）</p>
78	<p>日本司法支援センター山梨地方事務所（法テラス山梨） 弁護士又は司法書士による無料法律相談（要予約、利用に一定の要件有り） 毎週火曜日・金曜日 13時～16時、毎月第2木曜日 9時30分～12時30分 甲府市中央 1-12-37 イリックスビル 1階 Tel0570-078326</p>

◆ 社会保険労務士無料相談・労働相談室開設日カレンダー

○：社会保険労務士無料相談 午前 10 時～午後 4 時 市役所本庁舎 4 階 相談室 4a

□：労働相談室 午後 5 時～8 時（祝祭日 午後 1 時～4 時）市役所本庁舎 4 階 相談室 4a

※各日程については予定であり、変更になる場合があります。広報こうふ、市ホームページ等でご確認ください。

2026 3 MAR.

日	月	火	水	木	金	土
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7
(8)	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
(22)	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2026 4 APR.

日	月	火	水	木	金	土
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
					1	2
5	7	7	8	9	10	11
(12)	14	14	15	16	17	18
19	21	21	22	23	24	25
(26)	28	28	29	30		

2026 5 MAY.

日	月	火	水	木	金	土
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
(10)	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
(24)	25	26	27	28	29	30
						31

2026 6 JUN.

日	月	火	水	木	金	土
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	
(7)	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
(21)	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

2026 7 JUL.

日	月	火	水	木	金	土
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
				1	2	3
5	6	7	8	9	10	11
(12)	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
(26)	27	28	29	30	31	

2026 8 AUG.

日	月	火	水	木	金	土
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
					1	
2	3	4	5	6	7	8
(9)	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
(23)	24	25	26	27	28	29
30	31					

2026 9 SEP.

日	月	火	水	木	金	土
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5		
6	7	8	9	10	11	12
(13)	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
(27)	28	29				

2026 10 OCT.

日	月	火	水	木	金	土
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
			1	2	3	
4	5	6	7	8	9	10
(11)	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
(25)	26	27	28	29	30	31

2026 11 NOV.

日	月	火	水	木	金	土
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
(15)	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
(29)	30					

2026 12 DEC.

日	月	火	水	木	金	土
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5		
6	7	8	9	10	11	12
(13)	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
(27)	28	29	30	31		

2027 1 JAN.

日	月	火	水	木	金	土
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
		1	2			
3	4	5	6	7	8	9
(10)	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
(24)	25	26	27	28	29	30
						31

2027 2 FEB.

日	月	火	水	木	金	土
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	
(7)	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
(21)	22	23	24	25	26	27
28						



メモ





メモ





メモ



令和8年版 はたらく者のサポートガイド

令和8年3月発行(本誌は、令和8年1月1日現在の情報を掲載しております。)

編集・発行:甲府市産業部産業総室企業立地雇用推進課

〒400-8585 甲府市丸の内一丁目 18番1号

TEL055-237-5736 FAX 055-227-8065



下記ホームページでもご覧いただけます。

「甲府市ホームページ くらし 就職・労働」

<https://www.city.kofu.yamanashi.jp/rose/kurashi/shushoku/shien/guide.html>
